

PERSPIRATION



2006 年度

茨城大学陸上競技部 部誌

創刊号

部誌創刊によせて

上地先生より部誌を創るのではじめの言葉をとのお話をいただいた。光栄であるとともに部誌創刊をととても嬉しく思った。

とはいえ創刊にそぐわぬ内容となることをお許し願わねばならない。

小生この3月末をもって茨城大学を退職し聖心女子大学へ移動することとなった。茨城大学の陸上競技部顧問として8年間学生諸君と関わることができたことは大きな財産であり楽しい時間を共有できたことを心より感謝したい。限られた条件のグラウンドでトレーニングに汗する姿、大会においてグリーンのジャージで躍動する姿、声を限りに仲間を応援する姿、そしてテキパキと仕事をこなすマネージャーの姿……。教えたというよりそういう姿からエネルギーをもらい学んでいたように思う。

小生が茨城大学に赴任したのは1999年4月である。最初の2年間は野田洋平先生とともに学生の指導にあたらせていただいた。野田先生のおおらかさ、懐の深さに学ぶことがとても多かった。また赴任当初から茨城大学陸上競技部OB/OG会である茨苑ACの方々には、対校戦の運営をはじめさまざまな支援をいただいた。とても心強くありがたかった。茨城陸上競技協会の先生方にも大変お世話になった。大学院生だった20数年前に茨城代表として国体に出場したことがある。残念ながら得点をとることは出来なかったが、スタンドから声援いただきテントにもどってから温かく声をかけていただいたことが生涯忘れえぬ思い出として残っているが、それと同じようななんともいえない心地よさを感じた。そして3年ほど前から上地勝先生に指導に加わっていただき監督をお願いした。上地先生の若く情熱のこもった真摯な指導にととても感銘を受けた。

茨城大学陸上競技部は、いくつかの対校戦を持っている。学生諸君は当たり前のように思っているかも知れないが、これだけ多くの対校戦を永く続けて開くことができているというのはすごいことだと思う。千葉大学との対校戦、北関東五大学対校戦、22大学対校戦・・・選手である学生、運営に携わる学生、審判をしてくださる方々、OB/OGの支援など、本当に多くの条件が整わないと続けることはできないだろう。

小生は学生が好きだ。学生諸君が4年間さまざまな体験、それは成功ばかりではなく失敗も多いであろうが、陸上競技を通してどんどん変わっていく姿がとても好きだ。授業やアルバイトその他の体験ももちろんそれに大きく影響するだろう。しかし部活動に参加し仲間と語り悩みながら1つの目標に向かっていく体験、そして学生自らが大会を企画し開催していく体験など。それらは前者の比ではないように思う。何も変えがたいすばらしい体験の機会である。茨城大学陸上競技部にはその機会がある。積極的にに関わり、楽しみ悩み大いに自らを鍛えて欲しい。

平成19年3月

茨城大学陸上競技部部长 植田誠治

目 次

部誌創刊によせて	部長 植田誠治
I. 2006 年度シーズンを振り返って	1
II. 2006 年度活動報告	3
i)大会後記	4
関東インカレ／全日本インカレ／千葉対校／関東甲信越体育大会／国公立 22 大学対校／ 北関東 5 大学対校／箱根駅伝予選会／国公立 22 大学対校駅伝／三浜駅伝／荒川駅伝／ 勝田全国マラソン	
ii)その他競技会	14
静岡国際 GP／理工系大学対校／全日本学生チャンピオンシップ／関東新人／茨城県選手権 関東選手権／全日本ジュニア／	
iii)その他の活動	15
補助員／宇都宮大学合同合宿／春合宿	
III. 2007 年度シーズンの抱負	17
IV. 2007 年度活動予定	19
V. 卒業生より	20
VI. OB/OG 近況報告・現役部員へのメッセージ	24
VII. 記録集	28
茨大記録・男子／茨大記録・女子／2006 年度ランキング	
VIII. 部員名簿	31
編集後記・連絡先	32

I. 2006 年度シーズンを振り返って

一年間を振り返って

前主将 高藤清人

今回部誌を作るにあたり、このような機会を頂いたので、自分が陸上競技部主将として、短距離ブロック長として過ごしたこの一年を振り返ってみようと思う。

まず、主将としての反省をする。第一に自分の考えをうまくまとめて部員に伝えることができていなかった。自分は、部としての目標を一点には絞らず、個人の考えをできるだけ尊重しようというスタンスでやっていたつもりだったが、それをうまく伝えられず、特に1年生は戸惑ってしまっていたようである。また、部の目標をしっかりとできていなかったせいで、対校戦で集団の力を引き出しきれなかった。

第二に行動の遅さが挙げられる。仕事が多い時期にうまく割り振りができず、そのせいで直前にならないと終わらないことが多かった。忙しい時期には、前もって仕事の分担をし、計画的に進めなければならない。

上に挙げたこと以外にも反省点は色々あるが、根本的なものはこの2つだろう。この反省を活かし、次の代にはうまく部を成長させて欲しい。

その他、主将として感じたことは、この立場になると部員の成長がうれしくて堪らないという事である。自己ベストを出したり、大会で好成績を残すと自分のこと以上にうれしいものである。1、2年の時は自分の事しか考えていなかったが、周りにも目を向けることが多くなった。そこら辺が主将を経験して自分が成長できた部分ではないかと思う。

次にブロック長として反省をする。昨年も一年生が多数入部してくれ、わいわい賑やかに練習できたと思う。2年次以上の選手も自己ベストを更新するものが多く、記録面では一定の成果を残せたのではないだろうか。しかし、肝心の対校戦では、ブロックとして全力を発揮できずに終わってしまい、残念である。一年間の計画、目標をしっかりと定めて、考えながら練習をしなければいけないだろう。以上がブロック長の反省である。

最後に、自分を支えてくれた大勢の皆さんにお礼を言いたい。一年間、ありがとうございました。

中長ブロックの反省

前中長距離ブロック長 秋山陽祐

今年度に入って中長ブロックは、3年次が全員日立で水戸にブロック長がいらないという前例のない形で活動してきました。メニューを立てていたのは我々3年次で、本来ならば細かにその日のメニューの意図を伝え、練習状況を把握するために、今まで以上に連絡や意思疎通を図らなければならなかったのですが、それを怠ってしまいました。そのため春から対校戦にかけて、けが人を多く出してしまい、例年に比べ自己ベストを更新する人も少なく、対校戦では得点できる者が限定されてしまっていました。

対校戦を終えて駅伝に向かう時期になり、今年度前半での悪かった部分を見直し、以下のことを実行しました。

- ・ 競技場練習ではない日でもポイントとなる日はなるべく集まるようにする。
- ・ その日の練習状況を連絡する。
- ・ 一週間サイクルのメニューをやめ、体のリズムに合わせたメニューにする。

三番目のことはある方にメニューを作ってもらうことに依存しましたが、このことで部員一人一人が集中してくれました。各駅伝の結果は、国公立22大学駅伝…男子2位・女子3位、三浜駅伝…2位、荒川駅伝…男子2位・女子2位という結果で、どの駅伝もあと一歩という悔しい駅伝でした。しかし、対校戦から活動の改善点を見出し全員の集中力が生んだ成果だと思います。また、今年走った者の大半が残るので、全員があと一歩の悔しさを忘れずに練習に取り組んで、来年こそは勝ちたいと思います。

昨年度に比べると、今年度は競技の結果では多少見劣りする部分があったとは思いますが、個人が部活に対して考え、行動に移せた年だと思います。特に1、2年生にはいろいろと動いてもらったので今後生きてくると思います。自分の意見を持って、その意見をぶつけ合ってほしいと思います。話さないで相手の意見が分からないままよりは、多少食い違っても相手の意見を理解するほうがよいと思うので。

反省点が多い今年度ではありましたが、来年度はその反省を活かし、さらに飛躍することを期待したいと思います。

跳躍ブロックの反省

前跳躍ブロック長 鈴木昇平

跳躍ブロックは、新入生女子3名と、新たに混成ブロックから1名を迎え活動してきました。男子3名、女子5名の計8名です。ブロック長として「楽しさの中にある真剣味」を追求して活動の中にも様々な工夫を凝らしてきました。

- ① 月に1回、奉仕活動と名づけた活動を実践。グラウンドの草抜き、坂の掃除、部室の掃除 etc…。目標を達成するためには、継続して「なにか」を成し遂げる強い心を造りたい言う意味から。
- ② 目標設定用紙を配布。各自の目標を確認。そしてそのためのプロセスを自覚できるようにするのが目的。
- ③ トレーニングの原則、「個別性」に基づき、毎週火曜日を「インテリジェンスデイ」に。今の自分には何が必要？新しい技術を試してみたい？そんなことを自発的に選手に考えて欲しくて設置。

院生、4、3年生が中心となりリーダーシップを発揮しました。そして2年生は先輩としての自覚を持ち、後輩の指導や、先輩への進言をしてくれました。新入生は若さと元気に満ち溢れ、常に士気を跳躍ブロックに与えてくれました。全員が仲良く、一緒に対校戦や日々のつらい練習を乗り越える！喜びの分かち合い。悲しみの分かち合い。それができたと思います。

それだけでなく、結果としても、多くの人が自己ベストを更新することができました。特に2年生の石崎あゆみの、三段跳における11m10cmと言う記録は、関東インカレの参加標準記録を見事突破するものでした。他にも、1年生の森あゆ美の走り高跳びにおける1m71cmは、全日本選手権、全日本インカレの参加標準記録を見事突破しました。このように、ブロックの運営、結果の両面から見て、今年度の跳躍ブロックの「出来」はかなり良かったです。これが率直な感想です。ただし、問題がまるでなかったわけではなく、改善点もあげることが出来ます。

- ① ブロック長の私自身が教育実習や、それらのガイダンス等、3年生として多忙な時期を送った。そのため、練習メニューの連絡や、練習場所に関する連絡が、迅速に行えなかった。計画的に事前に行動をすべきだった。
- ② 各選手の状況の確認(怪我の状態などだけでなく、モチベーションの上下や、精神的なストレスに対すること)を徹底し行えていなかった。練習中や、それ以外のときの会話を、さらに重視していくべきだった。

今年2月は、走り高跳びの助走部分に、オールウェザーのシートが敷かれました。また、新たに走り幅跳びの練習場所には、踏み切り板が設置されることになりました。私が入学した当初は、走り高跳びのマットさえもなく、助走部分には雑草が生え、抜くと地面が凸凹になり、柔らかくなってしまい、足をとられる・・・と言った悲惨な状況だったことを覚えています。そのころから考えられると、跳躍ブロックを取り囲む練習環境は、かなり良くなりました。しかし、陸上競技のみならず、様々なスポーツの有名高校において、施設が充実してから実力が下がってしまう高校が少なくありません。

我々も、今の環境に対して常に感謝の気持ちを抱くことを忘れず、今まで変わらず「常に上を見る向上心」をもって地道に練習していこうと思います。

投擲ブロックの反省

前投擲ブロック長 水澤貴之

今シーズンは二人という少ない人数ではありましたが全体的に満足の行くものだったと思います。練習内容をできるだけ自分で考え、今は何をすべきなのかを考えてできていました。やはり、やらされるだけの練習では大学では通用しないのではないかと考え、できるだけ自分に合った練習を自分で考えるようにしていました。結果、お互いが自己ベストが出て満足の行くシーズンを送ることができました。反省点としては、もう少し基盤となるメニューは出しておくべきだったかなと思うことと、自分自身があまり練習に参加することができなかったことです。やはり、ある程度の練習の流れをつくるという最低限のことは必要だったのですが、そこも個人に任せてしまい少し失敗してしまったような気がします。そうすれば調整などもうまくいったのではないのかと反省しています。後は、ブロック長としての立場なのに練習への参加があまりできなかったことです。ただでさえ、二人しかいないブロックなので一人が休んでしまうと、一人で練習することになってしまうので、辛い部分もあったと思います。本当に申し訳なかったです。来シーズンは新しく投擲ブロックに新入生が入ってくると聞いたので、ブロックの部員が増え活気も溢れてくると思うのでみんな一丸となって頑張りたいと思います。自分も就活の合間を見て、できるだけ部活に顔を出して残り1年ですが頑張っていこうと思います。

マネージャーブロック ～1年間を振り返って～

前マネージャーブロック長 鬼澤美穂

今年のマネージャーブロックは、1年生2人を加えて計6人という大所帯で活動してきました。人数が多いことで全体的に見てもとても活気づいた活動が出来ていたと思います。

日頃の活動を振り返ってみると、人数は多くいましたがなかなか6人そろって参加することが出来ず、選手の方々にも迷惑をかけてしまったこともあるのではないかと思います。しかし悪いところばかりではなく良いところもあったと思います。それは人数が増えることによって、1人1人の仕事の負担が減り身の周りのことにも気を配れるようになったことです。私が3年間マネージャーをしてきて振り返ってみても、今シーズンが一番みんながマネージャーらしく働けていたと思います。大会では、自分たちの仕事はもちろんですが、選手の活躍する姿を見て感動したり元気づけられたりして楽しくとてもいい思い出を作ることが出来ました。大会は普段よりも仕事が多くて大変ですが、これからも楽しんで仕事をしていければと思います。

これからのマネージャーブロックの活動目標として、もっと積極的に部活に参加し、この人数を活かして効率的に仕事をしていけたらと思います。どうぞ来シーズンもよろしくお祈りします！！



マネさん、いつもサポートありがとう・・・

Ⅱ. 2006年度活動報告

2006年度活動内容

日程	大会名	場所
5/13～14 20～21	第85回関東学生陸上競技対校選手権大会(関東インカレ)	上尾 日産スタジアム
6/9～11	第75回日本学生陸上競技対校選手権大会(全日本インカレ)	日産スタジアム
7/7～9	茨城県陸上競技選手権大会	笠松(茨城)
8/5	第41回千葉大学茨城大学対校陸上競技定期戦(主催校)	笠松(茨城)
8/11	国体予選	笠松(茨城)
8/18～20	第79回関東陸上競技選手権大会	小瀬(山梨)
8/26～27	第55回関東甲信越大学体育大会	千葉県総合
10/21	第57回北関東五大学対校陸上競技大会	宇都宮
9/9～10	全日本学生チャンピオンシップ	平塚(神奈川)
9/17～18	第17回関東学生新人陸上競技選手権大会	国立競技場
9/29～10/1	第21回国公立22大学対校陸上競技大会	敷島(群馬)
10/6～10	国民体育大会	兵庫
10/21	第83回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	昭和記念公園
11/26	第5回国公立22大学対校駅伝大会	昭和記念公園
12/3	三浜駅伝	ひたちなか
12/17	第7回荒川河川敷大学対校駅伝競走大会	荒川河川敷
12/23～25	宇都宮大学合同合宿	笠松
2007/1/14	日立駅伝	日立
1/28	第55回勝田全国マラソン	ひたちなか
3/5～9	春合宿	エコパ(静岡)
3/25	楮川駅伝	楮川ダム(水戸)

i. 大会後記

第 85 回関東学生陸上競技選手権大会

(2006/5/13～14 上尾、5/20～21 日産スタジアム)

2006年の最初の対校戦、関東インターカレッジが埼玉の上尾(5/13、14)と横浜日産スタジアム(5/20、21)で幕を開けた。この対校戦は、全日本学生陸上競技選手権大会へとつながる大事な大会であり、また関東内全ての大学陸上競技部の選手たちが、冬季練習してきた成果を出す大きな祭典である。

我が茨城大学から、男子は 1500m、ハーフマラソン、110mH、走高跳、4×100mR、4×400mR、女子は 100mH、400mH、走高跳、三段跳、円盤投、4×100mR の選手達が出場することになった。

最初の対校戦ということで、新1年生は戸惑うことばかりだったと思うが、そこは新2、3年生が先輩の立場として、1年生に役割などを教え選手をサポートしていき、応援も「頑張っって声を出そう」などというようなどころが見られた。また4日間気候にも恵まれて、選手にとってはベストの状態での試合に望めたのではないのかと思う。

大会の結果としては12種目中2種目入賞したが、昨年度より点数がとれなかった。改めて他の大学との力の差を痛感させられるとともに、去年と同様先輩たちの力に頼っているチームという感じがした。

トラックシーズンが始まったばかりで、個人モチベーションがそれぞれ違うと思うが、これからの対校戦に向けていい刺激になったのではないと思う。しかし各ブロックそれぞれが課題や目標について考えさせられる大会になったのではないだろうか。また、先輩に頼らず一人一人が目標や役割を明確にしていくことが、これからの対校戦を勝ち上がる大切なことだと感じがした。そして次の千葉対校戦では個人の記録でもそうだが、部の運営としてもいい結果が残せるようにしたいと思った。(文責:中野雅利)

関東インカレ結果

氏名	種目	記録	備考
中島 友弘	男子 110mH	16"20	予選
川瀬 大智	男子 1500m	4' 06"17	予選
山本-沼尻-高藤-中野	男子 4×100mR	42"39	準決勝
山本-沼尻-高藤-中野	男子 4×400mR	3' 21"33	予選
秋山陽祐	男子ハーフマラソン	1° 15' 44	
鈴木 昇平	男子走り高跳び	1m90	
石川 ちひろ	女子 100mH	14"65	第7位
石川 ちひろ	女子 400mH	62"12	第7位
石崎-吉永-石川-森	女子 4×100mR	50"79	予選
吉永 知子	女子三段跳び	11m31	
二見 有紀乃	女子円盤投げ	34m62	
森 あゆ美	女子走り高跳び	1m65	



100mH 石川 見事入賞☆おめでとうございます！



1500m川瀬☆中距離陣唯一の出場！

第 75 回日本学生陸上競技対校選手権大会

(2006/6/9～11 日産スタジアム:神奈川)

6月9日～11日に日産スタジアムにて全日本インカレが行われました。茨城大学からは、石川が100mH、400mH、二見がハンマー投、森が走高跳に出場しました。大学の対校戦では1番大きな試合で、各自この試合に照準を合わせ調整してきました。

個人の結果としては、石川は、大学最後のインカレで4年生としての意地を見せてくれました。100mHでは、14秒07という自己ベストで、あと100分の3秒で茨城県記録という素晴らしい記録を残し、準決勝まで進出しました。同じ日に行われた400mHでは、100mHの疲れを感じさせないような力強い走りを見せてくれました。大学最後の年のこのインカレで、自己ベストを出すこと、また、二種目出場することは簡単に出来ることではありません。4年間の積み重ねがあったからこそその結果でしょう。

次に二見は、1年生ながらインカレに出場し、全国の大舞台で堂々と戦ってきました。記録的には、本人の満足いく結果ではありませんでしたが、大学の全国レベルの試合を経験出来たことは、これからの彼女のいい刺激になったのではないのでしょうか。

そして森は、同じく1年生で出場し、全国大会という大舞台でしっかりと自分の跳躍を見せてくれました。入賞まであと一歩というところでしたが、全国の壁は厚く、陸上競技の厳しさを改めて感じたのではないのでしょうか。二見と森については、あと3年間このチャンスがあるので、この経験を活かし、インカレに出場するだけでなく、その中の上位で戦えるような力を身につけていってほしいと思います。

今回のインカレは、出場選手が少ないにも関わらず、たくさんの応援があり選手の力になったことでしょう。今後、茨城大学からもより多くの選手が日本インカレに出場できるようになってほしいです。(文責:森あゆ美、二見有紀乃)

日本インカレ結果 ()内は自己ベスト記録

氏名	種目	記録
石川ちひろ	100mH	14"07(14"07)
	400mH	63"03(61"34)
二見有紀乃	ハンマー投	39m39(45m31)
森 あゆ美	走高跳	1m65(1m71)



石川☆最後のインカレで
100mH自己ベスト!



1年生森と二見のスマイル☆☆



第 41 回千葉大学茨城大学対校陸上競技定期戦

(2006/8/5 笠松:茨城)

今年の千葉対校戦は、我が、茨城大学の主催でした。OB の方々や茨城陸協の方々、近隣の高校生補助員など、多くの人々のご協力があり、無事に大会を終えることができました。この大会を通して改めて、私たちは多くの方々に支えられて陸上競技ができていのだと感じることができました。また、大会の後にはOB会に参加させていただき、歴代の茨城大学陸上競技部の先輩方と交流することができ、大変貴重な体験をさせていただきました。

競技の方は、男子総合:準優勝、女子総合:優勝でした。男子はフィールド選手が少ないこともあり惜しくも優勝を逃してしまいましたが、女子はほとんどの種目で優勝、準優勝を飾り、完全優勝といえるものでした。2006 年最初の対校戦であり、1 年次にとっては大学で初めての大会となった者が多くなりましたが、まずまずの仕上がりを見せ、2 年次以上では自己新記録を達成した者もあり、各自、そのときの力を十分に発揮できたのではないかと思います。

また、得点稼ぎの為、普段は出場しない種目に挑戦する者が多いのも千葉対校の特徴であり、そういった面での面白さもありました。リレー種目も、A チーム以外に、B チームや C チームが参加し、大きな盛り上がりを見せました。OP 種目ではありましたが、4×200mR では、OB チームと対戦することもでき、よい経験となったと思います。以下は、優勝種目と優勝者です。(文責:嶋田絵里子)

千葉対校結果

種目[男子]	氏名	種目[女子]	氏名
100m	沼尻健寿	100m	尾崎友美
200m	沼尻健寿	200m	森 あゆ美
800m	吉田 佑	800m	嶋田絵里子
5000m	秋山陽祐	1500m	野田春香
400mH	中島友弘	100mH	石川ちひろ
3000mSC	岡崎浩樹	走幅跳	石崎あゆみ
棒高跳	佐藤耕二	走高跳	森 あゆ美
三段跳	小川 孝	砲丸投	二見有紀乃
4×100mR	茨大 A 山本・沼尻・中野・高藤	円盤投	二見有紀乃
		4×100mR	茨大石崎・尾崎・吉原・森
		4×400mR	茨大 A 石川・吉原・尾崎・森



100m,200m,4 継三冠の沼尻



全体集合☆お疲れ様！！

第 55 回関東甲信越大学体育大会

(2006/8/26～27 千葉県総合:千葉)

今大会は、女子は短距離・長距離・フィールドとまんべんなく得点ができているので、よい戦いができたのではないかと思う。ただ、ここで満足することなく、さらに上を目指してほしい。一方男子は、中・長距離の活躍が目立った。これは女子にも言えることで、男女合わせて 6 人の入賞者を出し、昨年に続き今年もチームを走りで盛り上げてくれた。また、昨年入賞者 0 人に加えマイルで予選落ちと良いところのなかった短距離も、沼尻が 100m・200m で入賞し、4 継とマイルの両りレーでも決勝に進み、昨年に比べれば健闘したといえる。こういったトラックの健闘に対し、フィールドの弱さがあからさまに出た。昨年フィールドは総合得点が 19.5 点とトラックの 19 点よりも高かったが、今年は 1 点しか獲れなかった。ここ 2 年間フィールドの男子が入部しておらず、跳躍・投擲・混成ブロックに所属し、今大会に出場したものはわずか 3 人しかいない。今後は、跳躍・投擲・混成ブロックの者がより頑張るとともに、他のブロックの者がフィールド種目に出場したり、トラック種目でカバーしたりするなどの努力が必要である。

また、暑さもあり全体的に記録が伸びなかったが、その中で自己新記録を出した石川・中島・水澤・森の 4 名は非常に頑張ってくれた。こういった環境の中でも良い記録が出せるように、他のメンバーも彼らから学ぶべきところがある。

来年は主催校なので、OB の方々や陸協の方々と協力し、良い大会になるようしっかり頑張っていきたい。また、今年準優勝者が 3 人いたが優勝者はいなかったので、ぜひ優勝者を出したい。(文責:山下弘文)

関東甲信結果(8 位入賞者と自己新)

氏名	種目	記録	順位
沼尻健寿	100m	11' 01(+1.5)	5 位
沼尻健寿	200m	22' 78(-1.6)	8 位
渡辺雄馬	1500m	3' 58' 40	2 位
岡崎浩樹	1500m	4' 03' 84	8 位
秋山陽祐	5000m	15' 25' 64	7 位
中島友弘	400mH	55' 88	自己新
村上裕太郎	3000mSC	9' 49' 53	4 位
西尾・沼尻・山本・高藤	4×100mR	42' 99	7 位
山下・青木・吉田・沼尻	4×400mR	3' 25' 31	6 位
鈴木昇平	走高跳	1m85	8 位
水澤貴之	やり投	46m00	自己新
石川ちひろ	200m	26"20(±0)	6 位(自己新)
嶋田絵里子	800m	2' 25' 29	6 位
野田春香	3000m	10' 14' 04	5 位
笥千佳	3000m	10' 28' 55	6 位
石川ちひろ	100mH	14' 33(+0.9)	2 位
森あゆ美	走高跳	1m71	2 位(自己新)
尾崎友美	走高跳	1m50	5 位
尾崎友美	やり投	22m77	8 位
石川・森・石崎・尾崎	4×100mR	51' 08	5 位

男子総合 9 位、女子総合 4 位



第 57 回北関東五大学対校陸上競技大会

(2006/9/3 栃木県総合:栃木)

今年度の北関東五大学対校陸上競技大会は、栃木県宇都宮市、栃木県総合運動公園陸上競技場にて開催されました。関東甲信越体育大会(8/26~27)の一週間後であり、またけが人も多くいた中で、出場しなかった選手、リレーのオーダーを変えるなどチーム状態としては万全の体勢ではありませんでした。結果的には、男子トラック2位・フィールド5位で総合4位、女子トラック2位・フィールド1位で総合1位でした。男子トラックは短距離選手のけが人が多い中、ハードル・中長距離選手が多くの得点源となりました。フィールドは残念ながら5位という結果になってしまいましたが、フィールドのメンバー数を考えると、上位を目指せる人数ではないということが覗えます。女子は全体的にみると、上位に食い込むことができた人が多いように感じられます。これからはもっと大きな大会でも総合順位を上げていけるような、一人一人の更なるレベルアップを図りたいと思います。来年度は男女そろっての総合1位を目指したいです。(文責:石崎あゆみ)

五大学対校結果(3位まで)

順位	種目	氏名	記録
優勝	男子 5000m	渡辺 雄馬	15' 24"36
	男子 110mH	中島 友弘	15"79(-0. 5)
	女子 1500m	野田 春香	4' 48"57 大会新
	女子 3000m	野田 春香	10' 35"44
	女子 100mH	石川 ちひろ	14"76(-1. 7)
	女子走高跳	森 あゆ美	1m70
	女子円盤投	二見 有紀乃	35m69
第2位	男子 1500m	秋山 陽祐	4' 01"51
	男子 5000m	秋山 陽祐	15' 40"02
	男子 400mH	中島 友弘	55"71 自己新
	男子 3000mSC	岡崎 浩樹	9' 45"02
	男子走高跳	鈴木昇平	1m90
	女子 800m	嶋田 絵里子	2' 26"42
	女子 4×100mR	石川・森・石崎・尾崎	51' 05
	女子走高跳	尾崎 友美	1m50
	女子走幅跳	吉永 知子	4m90(+0. 3)
	女子三段跳	吉永 知子	11m05(+0. 4)
第3位	男子 200m	沼尻 健寿	22"43(+0. 9)
	男子 800m	吉田 佑	1' 58"27
	男子 1500m	岡崎 浩樹	4' 06"10
	男子 400mH	山下 弘文	56"74 自己新
	女子 800m	鶴見 彩	2' 27"03
	女子 1500m	笥 千佳	4' 57"16
	女子 3000m	鶴見 彩	11' 22"12
	女子三段跳	石崎あゆみ	10m81(-0. 6)



110mH 優勝の中島



長距離 2 冠の野田(先頭)
1500m は見事な大会新でした

第 21 回国公立 22 大学対校陸上競技大会

(2006/9/29～10/1 敷島:群馬)

2006 年のトラックシーズンを締めくくる 22 大学対校戦が、群馬の敷島競技場で行われました。この大会に合わせて練習してきた人も少なくないでしょう。夏シーズンの練習の成果を発揮するため部員一同練習してきました。事実、数多くの入賞者、自己新記録者を出すことができました。天気は 3 日間通して微妙な雲行きで、時折雨がばらつく場面も見られましたが、そのおかげか選手にとっては過ごし易い大会になったのでは、と思います。

また最後の大会ということで、全体的にまとまりを感じられた 3 日間でもありました。選手としては競技に集中することがまず第一ですが、その他選手のサポート、応援など多方面での充実が成されていたのではないかと感じる事が出来ました。仕事をそれぞれが覚えてきたのも挙げられますが、「選手を応援しよう」という応援側の気持ちと、「応援に応えるためベストを尽くそう」という応援される側の気持ちが合ってきたと思えました。

優勝者 1 名を含め 15 個の 8 位入賞を果すことができ、競技面でもトラックシーズンを締めくくる良い大会になったと思います。オープン種目ではありましたが、女子ハンマー投げでの二見のビッグスローは圧巻でした。本人も来シーズンに向けて手ごたえを感じた一投だったのではないのでしょうか。全体としては各ブロックから入賞者を出すことができましたが、男子は総合 9 位で昨年度より順位を下げ、女子は総合 4 位と健闘しましたが、上位とは開きがあり、まだまだ他大学との力の差を感じました。

22 大学対校戦は学生主催の大会です。自分達が競技を行えるのは運営してくださった方たちがいることを忘れず感謝しながら、来年は福島の地で今年度よりも良い結果を出せるようにしたいと思います。(文責:吉田 佑)

22 大学対校結果(4 位入賞者まで、および自己新)

名前	種目	記録	順位
渡辺 雄馬	男子 10000m	32' 09" 18	4 位
石川 ちひろ	女子 100mH	14" 26	1 位
森 あゆ美	女子走高跳	1m65	2 位
二見 有紀乃	女子円盤投	34m59	3 位
青木 卓也	男子 400m	51" 41	自己新
吉田 佑	男子 800m	1' 57" 80	自己新
手倉森 洋人	男子 3000mSC	10' 13" 13	自己新
吉原 さゆり	女子 400m	66" 60	自己新
二見 有紀乃	女子ハンマー投	45m31	自己新



100mHで優勝の石川！
4 年生最後の最高の笑顔です☆



ハンマー投で自己新の二見！
ナイスビッグスロー！！

第 83 回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会

(2006/10/21 昭和記念公園:東京立川)

10月21日8時30分、第82回大会でシード入りを逃した伝統校をはじめ、復活や初出場を狙う44校が陸上自衛隊立川駐屯地の滑走路を使い、出場校が横一線にスタートを切りました。茨城大学陸上部の今年の箱根予選は、出場資格の最低人数10人ギリギリでスタートしました。全510人のランナー達は20km先のフィニッシュに向け走るなか、途中先頭集団では転倒がありましたが、私達にはその余波さえ届きませんでした。今回の箱根予選会の出場までの道のりは長く、私達はメンバー10人の標準記録を切ることさえ苦労しました。その為、メンバー全員が走り切り、チームとして順位とタイムを残せたことは良かったと思います。レース中は雨が降りそうな中、陸上部のメンバーやOBの方、大学関係者の方々からの声援を受けて励まされました。

チームとしてはあまり書くことがないので、私個人の感想を書かせていただきます。今回の予選会は私の為に皆さんが無理をして出ていただいたレースでした。他大学とは違い、チームとしてではなく、個人個人の戦いだっと思ったと思います。昨年の子選会ですべて悔しい思いをして、なんとか雪辱を晴らすために1年間走ってきました。しかし個人順位も箱根には程遠く、力の差と積み重ねてきたモノの差を強く感じました。有名私大や有名ランナーと走れたことにより、現在の自分がどの位置にいるのかを認識でき、あとの位の練習をすれば良いかが漠然と分かったことで、今後の競技とモチベーションに繋がると思います。今回応援して下さい下さった皆さん、メンバーの皆さんに感謝しています。ありがとうございました。(文責:渡辺雄馬)

結果 44 チーム中 34 位 最終総合タイム 11 時間 47 分 58 秒

20km	タイム	順位
渡辺 雄馬(2年)	1° 03' 29	169位
秋山 陽祐(3年)	1° 06' 14	275位
村上 裕太郎(4年)	1° 08' 36	339位
蓮田 大樹(1年)	1° 09' 13	353位
岡崎 浩樹(2年)	1° 10' 05	375位
佐藤 伸行(3年)	1° 10' 19	380位
手倉森 洋人(1年)	1° 11' 53	410位
大野 裕隆(4年)	1° 12' 52	428位
河野 光由(1年)	1° 14' 53	467位
川瀬 大智(3年)	1° 20' 34	501位

渡辺雄馬 関東インカレ標準記録を突破(ハーフマラソン)



☆男子中長距離集合☆



快走した渡辺☆

第 5 回国公立 22 大学対校駅伝大会

(2006/11/26 昭和記念公園:東京立川)

11月26日に、東京の立川国営昭和記念公園にて22大学対校駅伝が行われました。男子は対校の部2位、女子は対校の部3位という結果でした。男子対校の部は17チーム出場し、優勝は東京学芸大学でした。茨城大学は惜しくも20秒差に敗れ、去年に引き続き2位という結果でした。

レース展開は1区エース渡辺がラストで後続を振り切り2位と25秒の差をつけトップで襷を渡し、2区の最短距離で次期ブロック長岡崎が18秒差までねばり、ブロック長秋山が区間賞の力走で2位と53秒の差をつけました。4区は1年生ながら蓮田が大学初の駅伝で区間4位の走りをつなぎ、5区は4年村上が大学生活最後の力を振り絞って逃げ切り、6区川瀬が5位から追いついてきた東京学芸大学に抜かれたものの最後までねばり、3位を振り切り5秒の差をつけ見事2位でゴールすることができました。50秒以内に5チームがゴールするという接戦でした。優勝まであと一歩で悔しい思いをしましたが、準優勝という結果は不調であったトラックシーズンから練習を積んできた成果であると思います。来年は優勝を狙って練習を重ね、競い合って向上してくれることでしょう。

女子対校の部は11チームが出場し、優勝は信州大学でした。茨城大学は2分19秒差の3位で、2位学芸大とは5秒差でした。レースは1区寛が故障後の不調に苦しみながらも5位で襷をつなぎ、嶋田が2区区間2位の力走で3位に押し上げ、3区鶴見が疲労骨折後にも関わらず3位のまま粘り、4区エース野田が見事な走りで追いつきをみせラストまで接戦にもっていきました。1位には大きな差をつけられ、今年も東京学芸大学に数秒差で敗れてしまいましたが、不調ながら今の力を全て出し切れた結果でした。今年は人数も増え初めて中長距離だけでチームを組むことができたので、これからも高め合いより強いチームになって来年こそ全員が走れるいい状態で優勝を狙ってくれることでしょう。(文責:寛千佳)

男子対校	1区(10.3)	2区(3.0)	3区(7.5)	4区(5.3)	5区(5.3)	6区(5.2)
2位	渡辺雄馬	岡崎浩樹	秋山陽祐	蓮田大樹	村上裕太郎	川瀬大智
区間記録	0:32:20(1)	0:09:25(6)	0:23:46(1)	0:16:58(4)	0:17:18(8)	0:16:44(4)
総合結果	0:32:20(1)	0:41:45(1)	1:05:31(1)	1:22:29(1)	1:39:47(1)	1:56:31(2)
男子 OP	佐藤伸行	吉田 祐	手倉森洋人	石井智也	高野和文	河野光由
区間記録	0:35:15	0:09:59	0:22:45	0:17:30	0:18:04	0:17:48
総合結果	0:35:15	0:45:14	1:07:59	1:25:29	1:43:33	2:04:22
女子対校	1区(5.1)	2区(3.0)	3区(2.3)	4区(5.2)		
3位	寛 千佳	嶋田絵里子	鶴見 彩	野田春香		5km ロードレース
区間記録	0:18:30(5)	0:10:57(2)	0:08:46(6)	0:19:19(3)		井川 勝彦
総合結果	0:18:30(5)	0:29:27(3)	0:38:13(3)	0:57:32(3)		0:18:29



女子中長陣、今後の飛躍に期待です！

第 7 回荒川河川敷大学対校駅伝競走大会

(2006/12/17 荒川河川敷:東京)

12/17(日)に荒川河川敷で荒川駅伝が開催されました。茨城大学は、男子総合 2 位、男子オープン 2 位、女子 2 位というものでした。優勝は、男子は玉川大学、女子は連合軍(女子は OB や混合チームも対校に入ります)でした。

昨年男女・オープン全て優勝という嬉しい結果を残すことができただけに、今年も揃って優勝しようという強い思いがありました。また、この大会前に行われる 22 大学対校駅伝での悔しさもありその悔しさを今大会で晴らそうという思いがあり、この駅伝にかける意気込みは高いものでありました。しかし、結果は 2 位という悔しいものとなりました。

男子は、14 分台ランナーや箱根駅伝メンバーという有力選手もいるレベルの高いレースが繰り広げられました。1 区秋山が激戦区の中 6 位で繋ぐという力走を見せると、続く 1 年生石井・3 区蓮田もしっかりと走り切りました。ここでの総合順位は 7 位。ここからエース渡辺が爆発的な力で 1 位まで押し上げるという区間賞・最高の走りを見せました。5 区川瀬も期待に答えるべく区間賞の走りで見ごと 1 位をキープ。6 区岡崎は玉川大のエースの追撃を振り切れませんでした。必死の走りでゴールしました。またオープンの部を走った選手達も自分の走りをしっかりと見せてくれました。女子は、夏・秋と故障者が増えてしまい、駅伝に向けての練習が思うように積めず苦しい状態で挑むこととなってしまいました。しかし、その苦しい中全員が持てる力をしっかりと出しきりました。1 区野田が必死の粘りで 3 位でつなぎ、2 区短距離の吉原は期待以上の力走を見せてくれ、3 区寛が故障明けの中でも好タイムでつなぎました。そして 4 区嶋田が区間賞の走りで先頭を追い、アンカー鶴見は疲労骨折復帰すぐの中で力強い走りを見せてくれました。悔しい思いの選手達でしたが、実力をしっかりと受け止め、次につながる大会となったと思います。(文責:野田春香)

男子 茨大A 総合 2 位(2:13:56)、茨大 B OP2 位(2:23:38)

42.195km	1 区 10km	2 区 3km	3 区 8km	4 区 8km	5 区 5km	6 区 8.195km
茨大A	秋山陽祐	石井智也	蓮田大樹	渡辺雄馬	川瀬大地	岡崎浩樹
区間	0:31:24(6)	0:09:19(6)	0:26:04(5)	0:24:07(1)	0:15:34(1)	0:27:25(8)
総合	0:31:24(6)	0:40:44(5)	1:06:48(7)	1:30:55 (1)	1:46:30(1)	2:13:56(2)
茨大B	佐藤伸行	井川勝彦	齊藤健太	手倉森洋人	河野光由	高野和文
	0:34:09	0:10:09	0:25:49	0:27:46	0:17:23	0:28:20
	0:34:09	0:44:18	1:10:07	1:37:53	1:55:06	2:23:26

女子 総合 2 位(2:13:28)

34km	1 区 10km	2 区 3km	3 区 8km	4 区 8km	5 区 5km
茨大	野田春香	吉原さゆり	寛千佳	嶋田絵里子	鶴見彩
区間	0:38:15(3)	0:14:19(5)	0:29:33(2)	0:31:04(1)	0:20:16(2)
総合	0:38:15(3)	0:52:34(5)	1:22:07(2)	1:53:11(2)	2:13:27(2)

三浜駅伝

(2006/11/3 ひたちなか)

私たちがトラックシーズンを終え、ロードに移行していく上で、「駅伝」と言って重要視するものが 3 つあります。それが国公立 22 大学対校駅伝、三浜駅伝、荒川駅伝。その中のひとつの三浜駅伝について。

茨城県の三つの浜にまたがる駅伝です。結果は 2 位。出場は男子のみ。この後に控える荒川駅伝にうまくつながるように色々考え、オーダーも前日に決まりました。今年度の中長距離ブロック(男子)の内部事情を言うと、渡辺雄馬(2 年)が一般的にいうエースというものであり、それに続くのが秋山陽祐(3 年)、後はその下で似たり寄ったりといった感じです。今回の駅伝でも先の 2 人の走りが際立ったものとなりました。

1 区が 6 位で渡し、そこから 2 区で 3 位、3 区で 2 位、後はつないでアンカーの 6 区、1 位との差は広く、詰めはするものの結局そのままゴールとなりました。今大会の優勝は日立製作所。前회가うまくいってなかったみたいで、今回はしっかり合わせてきていると大会前から聞いていましたが、それがそのまま結果につながる形となりました。

大会後、新聞にこの大会の記事があり、そこに 1 位のインタビューの様子が記してありました。

「実業団が大学生に負けるわけにはいかない。」

新聞は言ったことと違ったことが載ることがあるのですが、この発言が本物であるなら、若干気になります。負けたほうなので仕方ありませんが、悔しくは思いました。

はじめに「3つの駅伝」と言いましたが、この駅伝は大学同士の勝負ではありません。その点からすれば、他の2つに比べて意識は低いと思います。かといってレースごとに走力が急に変化することはほとんどないので、結局、勝つには力が足りなかったのだと思います。

どのような大会でもそうですが、運営面を陰で支える人たちがいます。私たちが茨城で陸上競技ができるのも陸協の方々の支えは絶対あります。恩返しと言ったら変ですが、このような地元の駅伝で私たちのパフォーマンスで楽しませられたらいいです。与えてもらってばかりではいけません。(文責:岡崎浩樹)

結果 2位

1区 岡崎浩樹、2区 秋山陽祐、3区 川瀬大智、4区 蓮田大樹、5区 手倉森洋人、6区 渡辺雄馬
区間賞 渡辺雄馬

第55回勝田全国マラソン

(2007/1/28 ひたちなか)

平成19年1月28日にひたちなか市で勝田マラソンが開催された。この大会は毎年、4年生が引退レースとしてフルマラソンを走ることになっていて、今年も4年生全員がフルマラソンを走った。その他にも中長距離ブロックから、男子フルマラソン、男子10km、女子10kmにそれぞれ何名か出場した。

4年生は、大学最後のレースとあって、それぞれ楽しみながら走った。当日は快晴のもとで行われたおかげで、出場した4年生のほとんどの人が制限時間(6時間)以内にゴールすることができた。それでも、誰もが苦しむ30km以降はきつかっただろう。それを乗り越えられたのは、4年間陸上を頑張ってきたからであろう。4年生がゴールするときはみんなで応援して迎えた。そして、最後にゴールした跳躍ブロックの吉永さんが三段跳びでゴールしたので、みんな盛り上がった。

この大会は、4年生だけでなく、3年生以下も頑張りを見せた。男子フルマラソンでは秋山陽祐(3年)の7位入賞をはじめ、4名が2時間台でゴールした。また、女子10kmで、野田春香(2年)が7位入賞した。その他、入賞には届かなかったが、上位に絡む走りが見られた。出場者の記録は下の通りである。

全体的に見れば、フルマラソン、10kmも好記録だった。そして、4年生にとっては思い出に残る大会のひとつになったであろう。(文責:井川勝彦)

勝田マラソン結果

男子フルマラソン						
7位	2:31:33	秋山陽祐(3年)		887位	3:30:51	大野裕隆(4年)
46位	2:44:53	佐藤伸行(3年)		1092位	3:39:41	和久田英樹(4年)
124位	2:54:14	川瀬大智(3年)		1224位	3:44:25	中島友弘(4年)
126位	2:54:26	蓮田大樹(1年)		1537位	3:54:01	佐藤耕二(4年)
283位	3:04:59	手倉森洋人(1年)		1764位	3:59:38	中橋研介(4年)
336位	3:09:12	石井智也(1年)		3518位	5:48:18	木村亮(4年)
651位	3:22:02	村上裕太郎(4年)		3519位	5:48:18	方波見浩樹(院2)
792位	3:27:36	井川勝彦(1年)				
女子フルマラソン						
408位	5:52:33	石川ちひろ(4年)		?位	6:?:?:?	吉永知子(4年)
男子10km(39歳以下の部)						
39位	35:44	河野光由(1年)		44位	36:01	高野和文(1年)
女子10km(39歳以下の部)						
7位	36:31	野田春香(2年)		14位	40:07	笥千佳(2年)
11位	39:33	嶋田絵里子(2年)		16位	41:48	鶴見彩(1年)



4年生にとっては最後の集合写真です。フルマラソン&4年間の競技生活お疲れ様でした。

ii. その他主な競技会の結果

茨城県選手権(2006.7.7~9 笠松)

	選手名	種目	記録
1日目	高藤 清人	400m 準決	51"00 自己新
	森 あゆ美	走高跳	1m63 1位
2日目	高藤 清人	100m 予選	11"24(+2.7) 自己新
3日目	中島 友弘	110mH 予選	15"79(+1.6) 自己新
	沼尻 健寿	200m 決勝	22"53(+0.3) 自己新
	小川 孝	三段跳	13m01 5位
	青木・高藤・ 吉田・沼尻	4×400mR 決勝	3'21"53 2位
	佐藤耕二	十種競技	4977点(12"34, 5m67, 8m12, 1m55, 54"8/ 17"84, 25m78, 3m50, 41m03, 4'51"75) 4位 自己新
	石崎 あゆみ	三段跳	11m10 1位 自己新

大会名	月/日(場所)	出場者	種目	結果
静岡国際 GP	5/3(静岡)	石川 ちひろ	400mH	63"54
全日本ジュニア	7/8(島根)	二見 有紀乃	ハンマー投げ	40m03
関東選手権	8/19(甲府)	二見 有紀乃	ハンマー投げ	41m67(7位)
	8/19	中島 友弘	110mH	16"14
	8/20	二見 有紀乃	円盤投	35m86(8位)
	8/20	森 あゆ美	走高跳	1m70(2位)
全日本チャンピオン シップ	9/9(東海大)	二見 有紀乃	ハンマー投げ	41m48
	9/9(平塚)	森 あゆ美	走高跳	1m65
理工系大学対校	9/9(鴻巣)	尾崎 友美	走高跳	1m50(1位)
関東新人	9/17(日大)	二見 有紀乃	ハンマー投げ	42m62
	9/17(国立)	沼尻 健寿	100m	11"36
	9/18(国立)	沼尻 健寿	200m	23"25



関東選手権 HJ2位の森と、HT・DTダブル入賞
二見の頼もしい1年生凸凹コンビ



混成ブロックを一人で守ってきたデカスリート佐藤
(県選手権競技終了後)



短距離陣を引っ張ってきた主将高藤とエース沼尻



スマイル！

iii. その他の活動

補助員活動について

陸上競技部では、選手としてだけでなく、補助員や審判員としての活動も行っています。この活動では、ルールに忠実な審判をすることはもちろん、競技を安全かつスムーズに行うことや、選手のサポートなど責任を持って努めています。活動内容を下表に示しましたが、その他にも小学生の陸上競技大会やマスターズの陸上競技大会など様々な大会の補助員として活動しています。また、小学生などを対象とした選手育成の場にも参加しています。

今後も、これらの活動に積極的に参加し、この活動を通して、責任を持った行動、正確かつ迅速な判断ができるような選手になれるよう努めます。また、陸上競技の更なる発展に繋がっていくような活動をしたいと思っています。

(文責:高野和文)

平成18年度活動内容

年月日	大会名
2006.5.3	中学記録会
6.10	中学記録会
6.17	中学記録会
6.18	笠松スポーツフェスティバル陸上記録会
7.1	全日本中学通信陸上競技大会
7.8	全日本中学通信陸上競技大会
7.16	笠松スポーツフェスティバル陸上記録会
7.25	総合体育大会陸上競技大会
8.20	青年陸上競技県予選
9.18	中学記録会
10.15	笠松スポーツフェスティバル陸上記録会
10.21	東京箱根間往復大学駅伝競走予選会
2007.1.2~3	東京箱根間往復大学駅伝競走

茨城大・宇都宮大学合同合宿

短距離、フィールドブロックは12月23日～25日、2泊3日で宇都宮大学と合同合宿を行いました。冬季練習のまっただなかでもあり、初日の午前中のみが競技場での、以降は浜坂、砂浜での走り込みが主となりました。

本練習前のアップでは普段の練習ではできない、人数が集まるからできる島鬼、最終日には砂浜でサッカーと交流も深めました。関東甲信越体育大会、22大学対校、5大学対校と多くの対校戦で顔を合わせる良きライバルでもあり、今回は良き仲間としてお互い切磋琢磨して3日間を乗り越えられた気がします。競技場での快調走、坂ダッシュにおいて、最後ゴールラインを過ぎるまでしっかり走りきるよう宇大の人からの声掛け「最後まで！」には本番を想定して1本1本を大切に走るという意識の高さに改めて刺激を受けました。

夕食後のミーティングではお互いに練習メニューを紹介し合い、練習方法などについて意見交換をしました。学業と練習の両立についても…本音も交えて活発に意見が出る会になったと思います。

辛くも楽しい合宿の3日間はあっという間でした。次に両大学が顔を合わせるのはシーズンでの対校戦、お互いに一段と刺激し合える成果が出せるとよいと思います。(文責:尾崎友美)

春合宿

3月5～9日の5日間の日程で、静岡の草薙陸上競技場を基点に春合宿が行われました。30人程の部員が参加し、ホテルに宿泊しながら朝練習、9時半から午前練習、14時から午後練習を行いました。

多少雨も降りましたが天候にも恵まれ、トラックシーズンに向けて質と量ともに高い練習をすることができました。練習は集中して行い、より多くの時間を過ごし交流も深めることができました。また、競技場には他大学も練習していたため、いい刺激となりました。

練習はブロックごとで行い、それぞれが内容をしっかりと考え取り組みました。各ブロックともにシーズンインを目の前に最終的な追い込み、または調整といった形で非常に内容の濃い練習に取れ組めたと思います。

最終日には全員でエンドレスリレーを行いました。2チームに分けて短距離200m、中長距離400mで行ったのですが、アンカー勝負までもつれ込み、最後まで接戦で面白い勝負となりました。1本1本に全力を出し切ったために動けなくなるほど追い込むことができました。普段は全員で同じメニューを行うことがないので、大きな一体感を感じることができました。

怪我のために走ることができなかった選手もいましたが、大きな怪我や事故もなく無事に5日間の練習を終えることができました。春合宿は、練習はもちろんのことですが、チームとしての一体感ややる気を育て、仲間と互いに励むことでお互いの意識を高めることなどチームとしての成長も見られるものだと思います。5日間の厳しい練習を乗り越えた顔は、充実感と疲労感がうかがえ、自信に満ち溢れていました。陸上競技に打ち込み、シーズンに向けて充実した練習を行うことができいい形で新体制を築きあげることができました。(文責:笥千佳、野田春香)



練習風景:山下&西尾「ハイッ！！」



マネージャーさん☆鬼沢・高橋・川瀬
いつもお世話になってます

Ⅲ. 2007 年度シーズンの抱負

今シーズンの抱負

主将 山下弘文

今シーズンの目標は「全員自己ベスト」です。この目標が達成できるように、しっかりチームをまとめ、シーズン終了後にみんなで笑えるよう頑張っていきます。また、よりよい練習をするために、チームの雰囲気大切にしたいと思います。チームの雰囲気が暗ければ練習の質も落ちるので、そういった時は自分から積極的に声を出すなどして、いつも明るい雰囲気の中で練習ができるようにしていきたいです。そして、一人ひとりとコミュニケーションを多くとり、ブロック長と協力しながら一人ひとりの状態をしっかり把握していきたいです。

この冬期は暖冬でグラウンドの状態が良く、去年に比べ練習をしっかり積むことができました。私自身も良い状態なので、4月の記録会から記録を狙い、自己ベストを出すことでチームに勢いをつけたいと思っています。「全員自己ベスト」という目標に向かい全員でがんばっていくので、応援よろしくお願いします。また今年に関東甲信越体育大会の主催校になっているので、OBの方々には色々とお世話になるとは思います。よろしくをお願いします。

今シーズンの目標

主務 嶋田絵里子

- ・まず、皆が競技に集中できるよう、スムーズな運営を目指していきます。
そのためには、積極的に周りに声をかけコミュニケーションを取り、情報交換を密に行っていきたいと思っています。また、何事も早め早めの行動を心がけていきます。
- ・主務としての自覚を持ち、迅速な行動を心がけたいと思います。
- ・一つの大きな指標としては、今年に関東甲信越対校陸上が茨城大学主催なので、その成功を定めます。
- ・みんなで素敵な茨城大学陸上競技部を作っていきます！ 至らない部分も多々あると思いますが、年間どうぞよろしくをお願いします。

短距離ブロックの抱負

短距離ブロック長 山下弘文

最近の中・長距離の活躍が目立っているので、今年に短距離が活躍する年にしたいです。目標は、関東インカレのリレーで決勝に進むことと、それ以外の対校戦のリレーはすべて決勝に進み、なおかつ他大学と勝負をするということです。去年のリレーは、決勝に進んだとしても勝負はさせてもらえず、1歩置いていかれているという状態でした。その1歩を埋めるために、短距離のメンバーの気持ちを一つにして、リレーで活躍しチーム全体を盛り上げられるような走りをしたいです。個人種目に関しても、関東甲信越体育大会と国公立22大学対校の入賞者が1人しかおらず、寂しい状態です。ただ、あと1歩で入賞圏内に入れる者もいるので、今も良い雰囲気の中で練習ができていると思いますが、より厳しい姿勢で上を目指して練習し、個人種目でもその1歩を埋められるようにがんばっていきたくです。また、短距離の男子は10人いますが女子は1人しかいないので、なんとか女子の人数を増やし、男女とも競争意識を持った中で、よりよい練習をして全体としてレベルアップしていきたいと思っています。

2007 年度の抱負 「速くなる！！」

中長距離ブロック長 岡崎浩樹

言い方は幼稚かもしれませんが、でも目標は個人個人で大きく違うので、ブロック内で全員が共通して思っていることはこのことくらいだと思います。それぞれが納得できるくらい速くなってほしい、結果的にならなかったとしても、精一杯あがいてもらいます。

何か感じたことがあれば伝えるようにする。自分を客観的に見ることも大切です。例えばフォームについて、これは自分が走っているだけではよくわかりません。周りの意見を参考にして、ビデオ撮って見るのもいいし、自分でしっかり考える。

集団に甘えすぎない。試合では、一人です。駅伝だったら本当に一人で走らないといけません。大勢でやれば刺

激しあえて、質がいい練習ができるかもしれませんが、一人の練習も必要だと思います。要ると言えば取り入れていきます。大勢でやる時も、なんとなく決まった速い人順で走るのではなく、自分が前に行く、とか思いながら取り組んでほしいです。

目標はいくつか立てる。達成すれば自信がつくし、達成した後も次に向かって取り組みやすい。

中長距離ブロックでは、まとまって戦うと言えるのはトラックよりもロードだと個人的に思います。駅伝、理想はラッキーに頼ることなく、実力だけで勝つべくして勝つこと。

速くなろうと思ったら一概には言えませんが、自分勝手になることや何かを犠牲にしないといけないときもあるのではないのでしょうか。これは個人的な思いです。

競技について、頭も体も自主的に動かしていく。これは実行してほしい。

2007年シーズンの抱負

跳躍ブロック長 石崎あゆみ

昨年10月にブロック長を引き継いでから早くも半年が経過し、冬季練習も終盤、シーズンへの移行期の季節となりました。ブロック長を引き継いでからは、初めは戸惑いが大きく、ブロックの方や先生にはご迷惑をおかけしてしまいました。月日を追うごとに仕事にも慣れ、他のブロックとも関わりながらメニューをたてるようになってきたと感じます。冬季練習では、全体的に練習量、強度を徐々に上げていくような形でメニューを組んで行きました。ある一時期に、メニューは組んだものの、集中授業や風邪、私自身のけがなども重なり、既定のメニューをこなす人が少なく、まとまって練習ができていないときもありました。このときは自分自身がけがをしていて、練習面で皆を引っ張っていかず、ブロックとしてのまとまりもなく、どうしようか不安になりました。しかし時が経つごとに風邪やけがから回復し、風邪を引いた時期によって一人一人体力面でのバラつきは感じられるかもしれませんが、ようやくまとまってブロックの皆で練習にきちんと臨めるようになりました。この調子で、ブロック全体がシーズンに向けてうまく移行していけるようにしたいと思います。冬季練習の成果はシーズンになってみないとまだ分かりません。冬季練習の成果があったことを証明するためにも、まず私自身が自己ベストを出せるよう努力していきたいと思います。様々なレベルの人が集まっているのでメニュー作りは難しいですが、ブロック内での関わりをたくさん持ち、シーズン中も、皆の練習状況や身体の調子などを把握できるようにしていきたいです。

また執行部としての仕事も、昨年より、より良くして行くために、ブロック長・現2年次で話し合い協力し合い、部全体が盛り上げていけるような雰囲気作りに努めたいです。部の中心となるのは大変だと感じますが、皆で努力した分、部は変わっていくと思います。あまり頼りないブロック長かもしれませんが、歴代の偉大なブロック長たちを見習い、自分自身のレベルアップと、執行部としての役割を全うし、有意義なシーズンにしていきたいと思います。2007年のシーズンが終わるまで、皆様よろしくお願いたします。

投擲ブロックの抱負

投擲ブロック長 二見 有紀乃

ブロック長を引き継いでから、早6か月になります。投擲は人数が少ないため、何かと忘れられがちですが、ちゃんと活動しています。基本的には学校でみなさんと同じ時間に練習しますが、投擲練習時の安全性の確保など、練習環境の都合上、別活動することもしばしば…。4月からは、新メンバーがたくさん入ってきてくれる(ことを期待している)ので、投擲ブロックの存在をアピールし、ブロックを盛り上げていきたいと思います。今シーズンの抱負としては、個人的には、チームを盛り上げられるようなパフォーマンスをしていきたいです。また、自分だけでなく、ブロック全体が充実したシーズンをおくれるよう、サポートしていきたいです。

今後の活動予定としては、5月の関東インカレ、6月の全日本インカレ、9月の全日本チャンピオンシップに重点を置いてやっていきたいです。また、他大学での練習、専門の合宿等、学外へ練習に行く機会を昨年よりも増やしていきたいと考えています。

マネージャーブロックの抱負

マネージャーブロック長 高橋 友

今年度マネージャーは人数が増え、かなり一人の仕事の負担が減ったような気がします。また、マネージャーは6人とも仲が良く、どの仕事を誰に任せても最後までしっかりこなせたのではないかと思います。しかし、人数が多い割にはなかなか細かい事柄に気配りが出来ず、もっと積極的に自分達から動くことが出来たのではないかと感じました。来年度からはもっと積極的に仕事をし、せつかくの6人という人数を活かし、効率的に動きたいです。新体制になり、「一人一役」が部の方針となりましたが、部活に何らかの形で貢献するという点では、私たちマネージャーが日頃行っていることでもあるので、マネージャーがまず率先して行いたいと考えており、マネージャーからも部を盛り上げていきたいです。マネージャーからも部を盛り上げていきたいという点については、競技についてのアドバイスはなかなか出来ませんが、部の方針や練習のやり方など、気づいたことに対しては、もっと茨大陸上部の部員として積極的に意見を言えるようなマネージャーを目指していくつもりです。また、部の目標が「全員が自己ベスト」であるので、「全員が自己ベストを出せるような環境を常に作る」というのをマネージャーの目標にしたいと思います。誰も気づかないような細かい作業は私たちマネージャーにしかできないことだと思うので、私たちがやらなければならないのだという気持ちを常に持っていきたいです。そして、選手との信頼関係も今まで以上に築き、どんなことに対しても気軽に「利用」してもらえるようなマネージャーでありたいです。

IV. 2007 年度活動予定

日程	大会名	場所
5/12～13 18～19	第 86 回関東学生陸上競技対校選手権大会(関東インカレ)	国立競技場
6/8～10	第 76 回日本学生陸上競技対校選手権大会(全日本インカレ)	国立競技場
6/29～7/1	日本陸上競技選手権大会	長居(大阪)
7/6～8	茨城県陸上競技選手権大会	笠松(茨城)
8/4	第 42 回千葉大学茨城大学対校陸上競技定期戦	千葉県総合
8/12	国体予選会	笠松(茨城)
8/17～19	第 80 回関東陸上競技選手権大会	神奈川
8/25～26	関東甲信越大学体育大会(主催校)	笠松(茨城)
9/8～9	全日本学生チャンピオンシップ	平塚(神奈川)
9/22～23	第 18 回関東学生新人陸上競技選手権大会	未定
9/30	第 13 回関東大学女子駅伝対校選手権大会	国立競技場
9/20～22	第 22 回国公立 22 大学対校陸上競技大会	県営あずま(福島)
10/5～9	国民体育大会	中央公園(秋田)
10/20	第 84 回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会	昭和記念公園
10/21	第 58 回北関東五大学対校陸上競技大会	敷島(群馬)
10/27	関東学連秋季オープン競技会	国立競技場
11/	第 6 回国公立 22 大学対校駅伝大会	昭和記念公園
12/	三浜駅伝	ひたちなか
12/	第 8 回荒川河川敷大学対校駅伝競走大会	荒川河川敷
12 月末	宇都宮大学合同合宿	笠松
2008/1/	日立駅伝	日立
1/	第 56 回勝田全国マラソン	ひたちなか
3/	春合宿	未定
3/	楮川駅伝	楮川ダム(水戸)

V. 卒業生より

『生涯茨城大学陸上部』

中島友弘

茨城大学陸上部として 2 年間で過ごしてきた。それは単に陸上競技をしてきたということではなく、陸上を通して人と知り合い、そこからまた陸上競技の新たな面を知る、というような連鎖の日々を過ごしてきたということである。

発見の連続でワクワクするような毎日は、徐々に当たり前のように感じるほど、自分に浸透した生活であった。しかし、卒業するにあたり、大学生として部活動に所属することはもうできない。どんなに望んでも、それは叶わないものになってしまった。

大学を出てからの生活は未知のものであり、期待と不安が入り混じる。いわゆる忙しさの中に、茨城大学陸上部であった自分を見失うのかもしれない。しかし、私が茨城大学陸上部 OB であることは消えることのない事実である。どんなに望んでも消えない事実となってしまった(決して望みませんが、前段落と言い方を合わせてこのような言い方で表現しています)。

自分自身にとって、茨城大学陸上部での経験が良いものとなるのか悪いものとなるのか、それはこれからの生活にかかってくるのかもしれない。過ぎ去ったことはそのまま受け止め、望んでも変わらないことには早々と降参をし、変わらない事実を最大限に楽しみながらこの先を生きていきたい。「まず、茨城大学陸上部として過ごした日々を思い出として大切にしよう。また、OB として後輩を応援し、OB 同士のつながりを大切にしよう。そして、これからも走ることで自分自身を鍛えていこう。」と思う自分がある。どうやら私はこの先もずっと、茨城大学陸上部の影響を受けて生きていくようである。それはどう隠すこともできない、嬉しい事実である。

教育学部保健体育科／短距離・ハードル／110mH15"79(歴代 4 位)400mH55"71(歴代 7 位)



4 年間で振り返って

石川ちひろ

私が茨城大学の陸上競技部に入ってまず思ったことは、350m のグラウンドで練習をやっているのかという心配でした。しかし、環境が整ったところではないこの茨城大学で、4年のときに自己ベストを出せたことは多くの方々の協力があったからこそだと思っています。一緒に練習した仲間、そして先生方、OBの方々のおかげであり、こうして大学 4 年間陸上競技を続けることができました。

部活の仲間とは、ともに励まし合いながら辛い練習を乗り越えてきました。まさに茨城大学のよさは、そんな仲間がいることだと感じています。4年での最後のマイルリレーでは、女子のメンバーが不調で人数が揃わず出場するか迷っていました。しかし、補欠で専門種目ではない部員たちもなんとか最後にみんなで走りたいということでマイルの辛さを押しつけて走ってくれました。この部員たちの熱い思いには心を打たれました。最後のマイルを楽しんで走ることができ、とてもいい思い出となりました。また、先生方には練習や試合で指導していただいたり、私たちが不自由なく陸上ができるよう環境を整えてくれたりと、多くの面で支えていただきました。OB の方々は、対校戦でのサポートやその他見えないところで茨城大学を支援し、応援してくださいました。

4 年間で振り返って見ると、こうして大好きな陸上競技を続けてこられたのは多くの方々の助けがあったからこそだと思います。本当に感謝しています。これからは茨城大学で学んだことや感じたことを大切にしていき、恩返しのためにも卒業生として茨城大学陸上競技部をサポートしていけたらいいなと思っています。

教育学部保健体育科／短距離・ハードル／100mH14"07(歴代 1 位)400mH61"34(歴代 1 位)



4年間の思い出・感想

吉永知子

中学1年の春に陸上部に入部してから、10年がたった。これまで先生方や部員、家族などいろんな人に支えられて、ここまで続けられたことを幸せに思うと同時に感謝の気持ちでいっぱいである。

昨年、競技を終えたことで改めて気付くことがたくさんあった。もちろん、競技生活中に学んだこともたくさんある。多くのことを経験させてもらえて、陸上部に入部するのとは違うのでは、大学生活の充実度が大きく違っていったように思う。考えたり、悩んだりすることが多い分、喜んだり楽しいことも多かった。それは同学年の仲間を始めとして、たくさんの仲間がいたからであると思う。

4年間の思い出としては、各地に遠征した大会や静岡での合宿のことがまず頭に浮かぶ。合宿で励ましあったこと、大会でベストが出たこと、部員が入賞したこと、一緒に応援したことなど、どれもよい思い出として記憶に残っている。

今後、どの大会でも茨城大学の緑のユニフォームがますます目立つように、みなさんの活躍を期待しています。先生方、先輩方、同学年のみんな、後輩たち、4年間ありがとうございました。

教育学部スポーツコース／跳躍／三段跳 11m52(歴代2位) 走幅跳 5m18(歴代3位)／



陸上競技部を振り返って

木村 亮

私の大学生活において、茨大陸上部での活動は非常に大きなウェイトを占めていました。今振り返ってみると、語っても語り尽くせない程たくさんの思い出があります。その中の印象深いもので私は対校戦における応援を挙げてみます。記録会や県選と違い、個人で戦うのではなく大学という団体に戦う対校戦。それを最も印象付けるのが応援だと思います。皆が一丸となって声を張り上げて応援するのが私は一年の頃から好きでした。特に対校戦の最終種目である男女マイルリレー決勝では茨大だけでなく競技場全体が一体となる、対校戦ならではの雰囲気でも楽しかったですね！

その年によって部の雰囲気や個性、チームの競技力が違ったり、また部の運営も代が変われば方針も変わったりします。でも対校戦で部員一人一人が必死に声を張り上げて応援する、あの一体感だけは私が一年の頃から全然変わってないと感じました。良い伝統はこれからも継続して欲しいですね。

他にもこれまで先生や現役生はもちろん、卒業していった先輩達、対校戦や駅伝を通して知り合った他校の友人・・・とたくさんの人たちに出会い、いろいろな考えを知り、学ぶ事が出来た。このことはこれからの人生において大きな財産になる事だと思います。長い間ありがとうございました。

工学部電気電子工学科／中長距離／1500m4'13"96, 5000m15'44"04, 3000mSC9'54"64



4年間の思い出

佐藤耕二

私の4年間は「陸上競技」との出会い、「陸上競技部」との出会いで始まりました。そしてこの二つこそが私の成長をもっとも促してくれたものだと思います。大学から陸上を始めようとしたきっかけはただの興味本位でした。

「デカスロンをやってみよう。」ただそれだけで始めた陸上競技がこんなに自分にとって大事なものになるとは思いませんでした。ほかの環境で頑張る選手の皆さんと出会って触発され、4年間の部活動が終わった今、大学院で研究に専



念するわけですがもう一度頑張りたいと練習する環境を探しています。

4年間たった今でも走る事、跳ぶ事、投げる事の楽しさをひしひしと感じます。足が速かったとか力が強かったとか誰かにやってみると強制されたわけでもなく、ただなんとなく選んだ「陸上競技部」にもたくさんのもを頂きました。この素晴らしい陸上競技を教えてくれた顧問の先生方、先輩方、同期の皆、そして後輩の皆。それだけでなく、24時間使い放題のグラウンド、トレーニング場の器具、倉庫の器具、ポールマットこれらを残していった下さったOB・OGの皆さん、茨城大学陸上競技部に提供してくれた皆さん。右も左もわからない私が陸上競技をすることが出来たのは皆さんのおかげです。

何か一つ欠けていたら今の自分はいなかったと思います。本当にありがとうございました。

理学部自然機能科学科／混成／10種4977点(歴代8位)棒高跳3m60(歴代10位)

4年間の部活を振り返って

和久田英樹

1年生の頃は、素晴らしい先輩に恵まれてとても充実した生活が送れました。競技面では1500mで自己ベストが出すことができ嬉しかったです。しかし、駅伝でAチームに入ることが出来ず、とても悔しい思いをしたことを覚えています。また競技面以外でも先輩方とお酒を飲んだり旅行に行ったり遊ぶことによって、貴重な経験ができたと思います。

日立に練習拠点が移った2年生の頃は、勉強を言い訳にして手を抜いた練習をすることが多くなってしまいました。その中でも完全に練習をやめないで続けることが出来たのは、日立にも素晴らしい先輩がいたからだと思います。水戸にはない楽しさが日立にはありました。

部活の中心になった3年生になるとようやく練習に対して少しずつですが自覚が出てきました。それと同時に日立にも後輩ができ、その後輩に引っ張られるように練習を行えました。その結果、800mで1分台は出すことはできませんでしたが、自己ベストを出すことができました。また、自分の心の中で引退試合として望んだフルマラソンで自己ベストを出したときは、安心しました。

4年生は就職活動、勉強、卒業研究、その他色々追いつまされてしまい全くといっていい程練習できませんでした。

陸上部での4年間は、素晴らしい人々に囲まれ、後悔なくすごすことができました。

工学部都市システム／中長距離／800m2'00"39



茨城大学陸上競技部に4年間所属しての感想

村上裕太郎

陸上部に入部して後悔することは何一つありません。こう思えるほど、茨城大学陸上部に入ってよかったと思います。反省すべき点は多いけれど、大学での部活動はそれまでのものとはかなり性格が違ったもので、練習メニューは学生が考える、食事でも自分でバランスを考えて取る、アルバイトもしなくてはならない、練習も毎日全員がそろってできるわけではない。このような中で自己管理の力を身に付けることができました。また、主将、中長距離ブロック長という大役を務めさせていただき、部活の運営やブロックのメニュー、チームの編成について四苦八苦する中でコミュニケーション能力が養われると同時に、上に立つ事の重大さを思い知りました。これらの経験は確実に自分という人間を前に押し進めてくれたと思います。

競技的なことを言えば、怪我は高校の引退間際に無謀な練習をし過ぎたことから一度ただけで、ほとんど無縁のものだったはずなのに、大学では二度も大きな怪我をしてしまい、その後の競技に大きく影響してしまったことが悔やまれます。特に両方の足を疲労骨折してしまったことは次にシーズンに大きく影響してしまい、四年次の四月にもう引退してしまおうと思うほど大きな挫折をしました。

それでも、陸上部に入って良かったと思います。卒業を間近にした今、部活を振り返ってみるとそう思えるから。

教育学部理科／長距離／3000mSC 9'32"28(歴代6位)／主将



4年間の思い出

大野裕隆

4年前、私が茨城大学に入学してから今日まで、陸上競技部には大変お世話になりました。今改めて振り返ると、この4年間で私は素晴らしい仲間たちと出会い、貴重な経験をしました。陸上競技部での思い出は本当にたくさんあって、ここではとても語りきれません。

活動の本分である競技を振り返ってみると、一番印象深いのは2年生のときです。私が2年生のときは、授業の関係でなかなかみんなと一緒に部活をすることができませんでした。5限があったり、水曜に授業があったりで、同じ練習ができなかったことに不安を感じていました。しかし、周りを見てみるとそんなことはただの甘えでした。先輩たちは自分で時間を作って、計画を立て、自分なりの練習をしていました。私はこのとき、これが大学の陸上なんだと改めて感じました。そして、そんな先輩たちの背中を追うように、私も時間を見つけては、練習に励むようになりました。そして、シーズンになり筑波の記録会で自己ベストを出すことができました。また、そのシーズンを通して好記録のレースが多かったことも覚えています。この経験で、地道に努力をすれば結果はついてくるものだというのを、身をもって教えられました。

このように、素晴らしい経験をさせてくれた陸上には本当に感謝しています。先生方、先輩や後輩、もちろんOBのみなさんや他大学の仲間たちにも、私はいろんな人たちに支えられてきました。ありがとうございます。これからもこの思い出を胸に、新たなステージで頑張っていきたいです。

人文学部社会学科／中長距離／800m1'58"31(歴代8位)



土屋奈津子

今年卒業ですが、部活には全く参加していなかったので近況報告させていただきます。今年は卒論を出しそびれるという失態をして留年を経験しました…。まさか、留年するとは。引退を宣言してしまったため、部活にも行きにくく、今年は、真剣にゼミに取り組みました。これまでは、参加できなかった、課外学習(土日が多いのです)などにも参加し、やる気のある態度を見せてしまいました。今年はそれによっていろいろ貴重な経験ができたのでよかったです。負けず嫌いを発揮し、留年によって受けそびれた院試も受けて合格し、借りは返しましたよ。(誰に?)

最近息切れがするな…と感じていた秋頃、健康診断でお嬢様の心臓だといわれ(普通の人より小さいらしい)、もしや運動不足で縮んだのかと思い、軽く走ったら筋肉痛になり、衰えを感じる毎日です。来年は勝田マラソンに出ようかなと考えていますがどうなるかはわかりません。留年をはじめ、今年も、もろもろのミスが発覚し、自分はなんて馬鹿なんだろうと思う日々でした。思えば四年の最後全カレの標準記録が変わったこともきちんと確認せず、のんびりしすぎてしまったような…。馬鹿は死んでも直らないというので、私の馬鹿というよりマヌケですかね…は一生つきあっていけないのだと思います。(開き直りました!)心身ともに、考えさせられた貴重な一年でした。

来年は私の居住地の隣村、東海村の村役場に就職することになりました。マヌケとはいえども、他人に迷惑をかけることだけは絶対にしたくないのでしっかり気をひきしめて、仕事をしたいと思います。

人文学部人文学科／短距離／200m25''46(歴代1位) 400m57''03(歴代1位)



大学院修了の館山と方波見、お疲れさん!



VI. OB/OG 近況報告・現役部員へのメッセージ

加藤伸栄

どうもお久しぶりです。皆さんお元気にしていますか？浜松のヤンキー覚えてますか？
というのは冗談ですが、茨城大学陸上競技部を陰ながら応援させていただいております
加藤です。今は、浜松の山奥の高校で保健体育教師をやっています。なんとか新聞にも
載らずに一年間過ごすことができました。近況報告といっても特になのですが、初任者
らしからぬ落ち着きと、世渡り上手な性格の為、問題なく毎日を過ごしています。しいて言
えば、競技の舞台が陸上から水上になったこと。今は、静岡県に2校しかないカヌー部を
引き受けている為、走ってはいませんが筋トレだけは大学以上にやっています。ここだけ
の話、来年陸上部ができるみたいです。もしかしたら！？ってか確実に！？陸上に早くも返り咲くかもしれないのでその
時は千葉対校戦をお楽しみに。もちろん選手として行かせていただきます。



と自分の事はこのくらいにして、在校生に伝えることって何かなあって考えたけどいまち思いつかない。でも思いつ
かないって事は、人間働きだして一年じゃそんなに変わらないってことかな。人間性とか働く為に必要な基本的な力
(忍耐力、創造力、行動力、先を読む力・・・)とかは大学卒業するまでに培うものだし、働きだして劇的に成長するもの
じゃないと思う。仕事の技術とかは伸びるかもしれないけどね。人間の基本的な部分ってそんな簡単に成長しません。
今、生徒を指導していてそう思います。だから、やっぱり大学生の皆さんは今を大切に、大学生の内に大きく成長
してほしい。自分は大学時代、主将を通して成長できたと思う。正直失敗もたくさんしてきたけど、今となっては自分を
成長させる良い経験になってます。あんなに友達とバカなことができたり、あんなに一つの事に打ち込める時間がある
のは大学生の時までです。今が自分で一番成長できる時期にいるのだから、今の内に頑張ってください。そうすれば
自ずと陸上の結果も見えてきます。

長くなりましたが、皆さんの成長に期待しております。ではまた会う日まで・・・

静岡県立春野高校教諭／2005 年度卒／教育学部保健体育科／短距離／100m 10''92(歴代 4 位), 200m
22''27(歴代 10 位)／主将

有田奈緒子

こんにちは。私は現在養護学校で、養護教諭として働いています。車椅子を使用している子どもが半数以上の学校
です。夏に障害者スポーツ大会があり、子どもたちと陸上の練習をしました。久しぶりに長距離のラップを測り、あ～大
学時代は毎日こんなことしてたなと感慨深い気持ちになりました。こんなこと呼ばわりするのは失礼でしょうが、私は周
囲の人々に「なんでこんな(マネージャーなんて)ことしてるの？」と聞かれることが何回もありました。他人から見れば
理解できないことでも私にとってはかけがえのないもの、それが陸上部のマネージャーであることでした。大会で手に
汗にぎりながら応援し、選手とともに緊張したり喜んだり悔しんだり、くだらない話で笑いあったり、意見の対立で苛
立ったり、飲み会でアホなことしたり。そんな刺激的な毎日を過ごさせてくれた部員のみなさんと先生方に感謝してい
ます。今、歩きたい希望と歩けない現実の間にいる子どもたちを見て、自分がどんなに幸運か考えさせられます。そん
なことを少しでも考えて、1日1日を大切に過ごしてくれたらうれしいです。これからも茨大陸上部を応援しています。
ファイト！

2005 年度卒／教育学部養護教諭養成課程／マネージャー



望月太樹

この近況報告を書く3時間くらい前まで用事で水戸にいました。フレッシュひたちでも十分早いですね。少しの時間だけど同期のタカシ、つっちーと再会！元気そうで去年と全く変わらない感じ。私は「細くなった」そうです。今は全く運動してないですからね。

さて現在の私はというと地元の埼玉でフリーターをしています。去年の3月に卒業するも希望の就職先に内定をもらえず就職浪人しました。卒業前から始めていた就職試験のための勉強は一週間で60時間くらい…自分至上最高に勉強し、頭の悪さを味わいました。そして6月末に希望通り、環境問題を扱うNGOからなんとか内定をいただき、無事、受験勉強から開放されました。そこからは、前から欲しかった二輪の免許を取り、バイクを買って、ちょこちょこいろんな所へツーリングに行って、たまに陸上部の試合に顔出して、あとはバイトして…というように過ごしてきました。

というわけで今は4月から仕事ができる喜びと、フリーター生活が終わってしまう寂しさが入り混じってます。今年もまた機会があれば試合に顔だそうかと思えます。ではでは…

2005年度卒／農学部地球環境科学科／跳躍／棒高跳 4m00(歴代7位)

海老原大輔

みなさんお久しぶりです。卒業してからもう一年！時が過ぎるのは早いものですね…学生時代は毎日のように朝から晩まで練習をして、プロテインをがぶ飲みするっていうめっちゃくちゃな生活をしてたのを覚えています。毎日が充実して、楽しかったな。

でも競技に関してはまだやりたい事、試したい事がたくさんあったし、記録ももっと狙いたかった。悔いだけが残っています。だからこそ現役でやっている選手達には悔いの残さないように日々の練習を積んでほしいと思います。

現在、私は毎日パソコン向いながら作業をしているので殆ど体を動かしていない生活をしています。そのせいか大学時代に苦労して手に入れた肩幅と脚のパーツが無くなっちゃいました。その代りにお腹のパーツを手に入れました。体重は15Kg減ですよ。かなりスリムになったのでみんなビックリするかもね。でも体力はまだまだ現役の時と変わらないっすよ！

ちょくちょく茨城大学陸上競技部に顔を出しますなのでその時はヨロシクです。

2005年度卒／教育学部保健体育科／投擲／砲丸投 15m02(歴代1位)、円盤投 39m38(歴代2位)、ハンマー投 43m26(歴代1位)



大学生生活を振り返って

吉野 学

2006年卒業の吉野です。卒業してから早一年。時間の流れがますます速く感じる今日この頃。社会人になってからは生活スタイルががらりと変わり、陸上競技から離れ、運動といえば駅までの15分のウォーキングという運動不足街道をまっしぐらです。時間がたったからこそ気づくことというのは非常に多いもので、学生生活を振り返って今感じることを少々書かせていただきたいと思います。

社会人と学生の大きな違いとして「時間」が挙げられます。学生時代には有り余るほどあった時間が今は限られたものになってしまいました。今の生活は、平日は家に寝に帰るだけ、まとまった休みもなかなかとれません。こうなると趣味に没頭したり、新しいことに挑戦したりということは難しいです。…恐らくこうやってだんだんつまらない人間になってしまうのでしょう。

学生時代はかなり時間を無駄遣いしたなど今更思い知らされます。時間がたくさんあるのは今のうちだけです。様々な所に飛び込んで色々な経験をして、様々な人に出会いましょう。部活をしていると様々な制約が出てくると思いますが、どんどん制約を外して行って良いと思います。部活のために何かを諦めるのはもったいないです。決してこれは部活をないがしろにするという意味ではありません。やるべきことはちゃんとやるという前提の上で広がりをもたせていくということです。どうしても部活をやっている人間は、部活は万能で高尚なものと思えがちです。決してそんなことはなく、あくまで生活の一部です。バランス感覚の優れた広い視野をもつことをお勧めします。とにかく時間は有効に！



競技面の話も少々。大学で記録が伸び始めたのは二年生の後半あたりからです。自分の実力が把握できたころから徐々に伸び始めたと思います。要するに自分の力の無さを認めてからです。高校時代に微妙にいい記録だったものだから、入学当初記録が出ないとあの頃の体力が戻ればなんて変な考えを抱いていたものです。

自分が無力だと知ることは大事です。変なプライドは捨てましょう。乱暴な言い方ですが、そもそも一部を除いて茨城大学に来ている時点でたいした力はないです。だからこそやりがいがあると思います。失うものは無いです。失敗してもたいしたこと無いです。自分を実験台だと思って様々な練習なり調整法なり試してください。これこそが陸上の醍醐味だと思います。言われたことだけをやるのではなく頭を使いましょう。

片田舎のよくわからない大学の選手が一流校の選手に勝つ…実に痛快な話だと思います。

あと最近応援行って思うのが元気が無いなど。普段見てないのでわかりませんが負のオーラをビンビン感じます。何事も明るく楽しくいきましょう！

我ながらまとまりの無い文章を書いてしまいました。何やら偉そうなことを書きましたが、あ～Y野が何か言ってるよくらいの気持ちで受け取っていただいて結構です。普段考えていることはもっとたくさんあるのになかなかうまく言えないものです。

DTであろうと無かろうと、とにかく素敵な青春時代を築いてください！

追伸

今年ご卒業の皆さんおめでとうございます。皆さんと過ごした日々を思い出すと胸がキュンとします。

2005年度卒／教育学部生活デザイン／跳躍／三段跳 14m81(歴代 1位)

田畑千英

こんにちは。卒業して早くも一年が過ぎようとしています。皆さんどうお過ごしですか。私は、現在千葉県の小学校で働いております。毎日小学一年生と一緒に生活し楽しんでおります。一年生はとても元気がよく、休み時間には毎回鬼ごっこをして一緒に遊んでいます。陸上競技部で冬季に行った鬼ごっこを思い出し、一年生を相手に本気を出して走り回っています。今のところは、まだ負けていません。



今大学生の頃を振り返ると、とても充実した日々が送られていたように感じます。この一年間は仲間の大切さを感じた一年でした。自分のことしか考えられなかった当時は、他人をうらやましく思うこともたくさんありました。自分だけうまくいかないことがあるのだと思っていた時期もありました。しかし、そのようなことはなく、今考えると多くの人が悩みを抱えていたのではないかと思います。そして、自分が悩んでいるときには、いつも仲間がそばにいてくれたことも思い出しました。自分でどうにかしたと思い込んでいたことも、すべて仲間に相談し、解決したことばかりでした。同じ世代の仲間が同じ目標に向かって努力し励むことは大学を卒業したらそう無いことだと思います。在校生の皆さんは模索する日々が多いと思いますが、自分ひとりで考えずに仲間と相談し共に解決していき、「今」を大切に生活してください。それでは、今後の茨城大学陸上競技部のますますの発展を祈っております。

2005年度卒／教育学部健康コース／跳躍／走幅跳 4m92(歴代 9位) 三段跳 10m10(歴代 5位)／主務

齊藤健太

こんにちは。2006年3月に理工学研究科数理科学専攻博士前期課程を修了した、齊藤健太です。私は2004年4月に入学したので、茨城大学陸上競技部に所属していたのは、2年間になります。所属期間が非常に短かったことに加え、院生としての都合上、なかなか部活動に参加できませんでした。



現在はシステムエンジニアの仕事をしています。実際には仕事をしているというよりも、仕事ができるようになるための修行をしている段階です。学生時代、システムなどとは無縁の研究をしていたので日々苦闘しております。

今年度、今まで何度か皆さんの前でお話をさせていただく機会をいただきました。現在、私は競技者でも指導者でもないのですが、陸上競技の技術などについて語ることはできないので、競技に取り組むにあたって大切にさせていただきたいことを簡単にみなさんにお伝えしたいと思います。

今一番強く思うこと、それは、ぜひとも自分の長所を大切に、伸ばしてほしいということです。陸上競技は、順位(勝負)という相対的評価に加え、記録という絶対的評価が存在するため、仮に試合で優勝しても自身に100点満点の評価を与えることは稀だと思います。そのため次の試合に向けて、欠点と思われる部分の改善に取り組むことが多いのではないのでしょうか。改良に取り組むことそれ自体は良いことなのですが、悪い部分にばかり目をやってしまうと、自分の良い部分—即ち自信—を見失ってしまう可能性があることも確かです。勝負を自分の得意な展開に持ち込むことも強さのうちです。日々自信をもって競技に取り組んでいただきたいと思います。

最後に、みなさんが陸上競技部を通じて、魅力あふれる人間に成長されることを期待しています。

2005年度修了/理工学研究科/中長距離/1500m4'01"49(歴代6位)5000m15'15"19(歴代5位)

小川 孝

茨城大学教育学部を卒業後、同大学院教育学研究科に進学し、短距離走の疾走動作、特に骨盤の前傾姿勢と下肢関節の動作との関係について研究しています。生活は学部生のときと大きく変わったことはありませんが、昨年度は8月に青森で開催された日本体育学会第57回大会に参加し、疾走速度と骨盤の前傾との関係というテーマでポスター発表をしてきました。初めての学会参加でわからないことばかりで、悪戦苦闘しながら発表の準備をしたことを覚えています。しかしながら、多くの方の質問から今後の研究活動への課題を得ることができた



こと、他の研究発表から多くのことを学ぶことができたことなど、充実した学会となりました。それだけでなく、この学会に参加するにあたり先行研究を熟読したことにより、うまく2月の修士論文中間発表へとつなげていくことができました。今後も、ただその場の経験だけで終わることなく、次のステップへ生かしていくことを意識していきたいです。

今後は、2月の修士論文中間発表会で指摘された課題を検討していくとともに、茨城県の教員採用試験があるので勉強に励んでいきます。部活もおそらく選手として最後のシーズンになるので、少しでも記録を伸ばせるようこつこつと練習していきます。気持ちよく競技を終えられるように…。

大学院教育学研究科/2005年度卒/教育学部スポーツコース/跳躍/三段跳13m96/コーチ



懐かしのひとコマ



いつも応援ありがとうございます
吉野先輩と2003年度主将剣持先輩

VII. 記録集

茨大記録・男子

種目	氏名	記録(風速)	期日	大会名	会場
100m	杉崎 弘周	10"51(+1.9)	1998/9/11	日本インカレ	国立
200m	杉崎 弘周	21"42(+2.0)	2001/9/2	新潟国体選考会	中条
400m	今村 明彦	48"06	1994/9/9	日本インカレ	国立
800m	今井 英明	1' 53"9	1990/4/7	学連競技会	筑波
1500m	熊田 耕一	3' 57"19	1994/10/22	国公立 20 大学	敷島
3000m	松下 祐一	8' 54"39	1998/4/19	日立記録会	日立
5000m	秋山 陽祐	14' 56"70	2005/9/17	国公立 22 大学	国立
10000m	秋山 陽祐	31' 33"38	2005/9/18	国公立 22 大学	国立
10km	千葉 雅昭	31' 20"	1981		
20km	渡辺 雄馬	63' 29"	2006/10/21	箱根駅伝予選会	昭和記念公園
30km	鈴木 徳次郎	1° 41' 12"	1973		
ハーフマラソン	高柳 昌央	1° 12' 11"	1991/2/3	別大ハーフ	大分
マラソン	根本 康成	2° 29' 35"	1982		
110mH	中山 雄策	15"30(-1.0)	2003/10/4	国公立 22 大学	長野
400mH	神尾 伸也	52"53	1994/8/23	関東選手権	笠松
3000mSC	井上 智弘	9' 09"94	1995/5/16	関東インカレ	国立
4×100mR	成石・杉崎・ 大久保・佐藤	40"75	1996/9/6	日本インカレ	国立
4×200mR	浅井・佐藤・ 大久保・神尾	1' 27"38	1995/5/28	リレー大会	笠松
4×400mR	岡本・神尾・ 飯塚・今村	3' 15"01	1993/5/23	関東インカレ	国立
4×800mR	中村・飯塚・ 林・神尾	7' 54"72	1994/5/29	リレー大会	笠松
4×1500mR	滝沢・根本・ 千葉・金沢	16' 38"3	1981	リレー大会	笠松
スウェーデン R	浅井・成石・ 大久保・岡	1' 57"44	1996/5/26	リレー選手権	笠松
走高跳	青木博光	2m00	1985		
棒高跳	岡山 進也	4m90	2001/5/26	リレー選手権	笠松
走幅跳	佐藤 良雄	7m09(?)	1959		
三段跳	吉野 学	14m81(+1.6)	2005/5/13	関東インカレ	国立
砲丸投	海老原 大輔	15m02	2005/8/	関東選手権	敷島
円盤投	渡辺 将司	39m93	2000	関甲信	敷島
やり投	渡辺 将司	66m94	2000/10/19	国公立 21 大学	小瀬
ハンマー投	海老原 大輔	43m26	2002/9/22	北関東 5 大学	藤沢
十種競技	渡辺 将司	6676 点	1999/7/17.18	栃木県選手権	宇都宮

茨大記録・女子

種目	氏名	記録(風速)	期日	大会名	会場
100m	柏 佑美	12"22(+1.9)	2001/9/2	国体予選会	笠松
200m	土屋 奈津子	25"46(+1.8)	2004/8/26	関甲信	新潟
400m	土屋 奈津子	57"03	2005/5/29	筑波大競技会	筑波大
800m	深谷 ユリ子	2' 14"97	1997/9/22	関東個人選手権	等々力
1500m	深谷 ユリ子	4' 38"94	1997/10/3	国公立 20 大学	宇都宮
3000m	笥 千佳	10' 09"38	2005/8/27	関甲信	甲府
5000m	笥 千佳	17' 12"55	2005/9/17	国公立 22 大学	国立
10000m	小林 恵子	39' 45"66	1996/7/5	茨城県選手権	笠松
5km	黒田 雅己	16' 20"	1992/11/29	潮来マラソン	潮来
10km	野田 春香	36' 31"	2007/1/28	勝田マラソン	ひたちなか
ハーフマラソン	三国 智子	1°28' 24"	1992/1/19	兵庫県川マラソン	神戸
マラソン	三国 智子	3° 15' 07"	1991/11/3	勝田マラソン	勝田
100mH	石川 ちひろ	14"07(+1.5)	2006/6/10	全日本インカレ	日産スタジアム
400mH	石川 ちひろ	61"34	2005/9/18	国公立 22 大学	国立
4×100mR	松崎・佐々木・ 住谷・柏	48"77	2000/8/6	千葉対校	天台
4×200mR	黒川・大内・ 長谷川・呉	1' 48"72	1994/5/29	リレー大会	笠松
4×400mR	佐々木・石川・ 秦・土屋	4' 01"53	2003/5/11	関東インカレ	国立
4×800mR	深谷・飯嶋・ 小林・柴	9' 42"31	1994/5/29	リレー大会	笠松
スウェーデン R	黒川・呉・ 長谷川・柴	2' 22"05	1994/5/29	リレー大会	笠松
走高跳	森 あゆ美	1m71	2006/8/26	関甲信	千葉
棒高跳	長久保 佳子	3m20	2001/6/29	茨城県選手権	笠松
走幅跳	宮原 直美	5m78	1985		
三段跳	住谷 典子	11m84(±0)	2001/10/13	千葉対校	笠松
砲丸投	鈴木 奈身	11m37	2000/6/18	北関東五大学	小吹
円盤投	梅原 由香	45m84	1997/8/23	国体予選	笠松
やり投	高村 理恵子	41m77	2000/6/18	北関東五大学	小吹
やり投(旧)	栗原 明子	42m86	1954		
ハンマー投	高村 理恵子	49m14	2002/6/9	日本選手権	国立
七種競技	斎藤 教子	3671 点	1984		

2006 年度ランキング

男子

種目	順位	氏名	記録
100m	1	沼尻健寿	10"90
	2	山本悠輔	11"24
	3	高藤清人	11"25
200m	1	沼尻健寿	22"08
	2	高藤清人	22"95
	3	西尾謙次郎	23"08
400m	1	沼尻健寿	49"34
	2	高藤清人	51"00
	3	青木卓也	51"41
800m	1	吉田 佑	1' 57"80
	2	川瀬大智	1' 59"27
	3	大野裕隆	2' 00"78
1500m	1	渡辺雄馬	3' 58"40
	2	川瀬大智	3' 59"65
	3	秋山陽祐	4' 01"51
5000m	1	渡辺雄馬	15' 00"65
	2	秋山陽祐	15' 19"18
	3	蓮田大樹	15' 37"59
10000m	1	渡辺雄馬	32' 09"18
	2	秋山陽祐	32' 41"14
	3	佐藤伸行	35' 18"19
110mH	1	中島友弘	15"79
	2	鈴木昇平	17"10
	3	佐藤耕二	17"84
400mH	1	中島友弘	55"71
	2	山下弘文	56"74
	3	鈴木 遼	63"63
3000mSC	1	岡崎浩樹	9' 45"02
	2	村上裕太郎	9' 49"53
	3	佐藤伸行	10' 06"28
4 × 100mR	1	山本・沼尻・高藤・中野	42"39
	2	山本・沼尻・中野・高藤	42"89
	3	西尾・沼尻・山本・高藤	42"99
4 × 400mR	1	山下・高藤・中野・沼尻	3' 21"33
	2	青木・高藤・吉田・沼尻	3' 21"53
	3	高藤・青木・中野・沼尻	3' 21"64
走高跳	1	鈴木昇平	1m90
	2	小川 孝	1m55
	2	佐藤耕二	1m55
棒高跳	1	佐藤耕二	3m70
走幅跳	1	山本悠輔	6m14
	2	小川 孝	5m91
	3	水澤貴之	5m83
三段跳	1	小川 孝	13m87
	2	山下弘文	12m93
	3	鈴木昇平	12m73
砲丸投	1	水澤貴之	9m20
	2	佐藤耕二	8m31
円盤投	1	佐藤耕二	27m61
	2	水澤貴之	24m74
やり投	1	水澤貴之	47m05
	2	佐藤耕二	41m03
十種競技	1	佐藤耕二	4977 点

女子

種目	順位	氏名	記録
100m	1	石川ちひろ	12"76
	2	尾崎友美	13"85
	3	吉原さゆり	14"04
200m	1	石川ちひろ	26"20
	2	森あゆ美	27"77
	3	吉原さゆり	28"73
400m	1	石川ちひろ	59"99
	2	吉原さゆり	66"60
800m	1	嶋田絵里子	2' 21"79
	2	鶴見 彩	2' 25"98
	3	寛 千佳	2' 27"69
1500m	1	野田春香	4' 48"57
	2	寛 千佳	4' 52"64
	3	鶴見 彩	4' 58"08
3000m	1	野田春香	10' 14"04
	2	寛 千佳	10' 28"64
	3	鶴見 彩	11' 22"12
5000m	1	野田春香	17' 43"74
100mH	1	石川ちひろ	14"07
	2	石崎あゆみ	16"56
400mH	1	石川ちひろ	62"12
4 × 100mR	1	石川・森・尾崎・石崎	50"42
	2	石崎・吉永・石川・森	50"79
	3	石崎・尾崎・吉原・森	52"39
4 × 400mR	1	吉原・石川・尾崎・嶋田	4' 14"17
	2	石川・吉原・尾崎・森	4' 28"35
	3	鶴見・石崎・野田・嶋田	4' 30"80
走高跳	1	森あゆ美	1m71
	2	尾崎友美	1m50
	3	和田明日美	1m40
走幅跳	1	石崎あゆみ	5m09
	2	吉永知子	4m90
	3	森あゆ美	4m88
三段跳	1	吉永知子	11m31
	2	石崎あゆみ	11m10
砲丸投	1	二見有紀乃	9m39
	2	森あゆ美	7m69
円盤投	1	二見有紀乃	35m86
	2	荒木千尋	20m62
やり投	1	尾崎友美	26m93
	2	石崎あゆみ	19m76
ハンマー投	1	二見有紀乃	45m31

部員名簿

学年	氏名	出身校/出身地	ブロック	学部/学科
院2	館山 哲郎	桐蔭学園/神奈川	短距離	理工院/電気電子
院2	方波見浩樹	銚田一/茨城	中長距離	理工院/情報
院1	佐藤 亘	成東/千葉	短距離	理工院/機械
院1	小川 孝	宇都宮東/栃木	跳躍	教育院/保健体育
4年	中橋 研介	並木/茨城	中長距離	工/機械
4年	中山 雄策	西眉楽/群馬	短距離	工/物質工
4年	土屋奈津子	日立一/茨城	短距離	人文/人文
4年	木村 亮	日出学院/千葉	中長距離	工/電気電子
4年	吉永 知子	佐野女子/栃木	跳躍	教育/スポーツ
4年	佐藤 耕二	新城/神奈川	混成	理/自然
4年	石川ちひろ	下妻一/茨城	短距離	教育/保健体育
4年	村上裕太郎	釜石南/岩手	中長距離	教育/理科
4年	大野 裕隆	鳥山/栃木	中長距離	人文/社会
4年	中島 友弘	鎌ヶ谷/千葉	短距離	教育/保健体育
4年	和久田英樹	浜松南/静岡	中長距離	工/都市システム
3年	鬼沢 美穂	湖北/茨城	マネージャ	教育/社会情報
3年	高藤 清人	竹園/茨城	短距離	理/自然
3年	佐藤 伸行	太田一/茨城	中長距離	工/都市システム
3年	秋山 陽祐	磐城/福島	中長距離	工/機械
3年	沼尻 健寿	つくば秀英/茨城	短距離	教育/スポーツ
3年	水澤 貴之	高田北城/新潟	投擲	教育/健康
3年	青木 卓也	藤代/茨城	短距離	工/機械
3年	川瀬 大智	巻/新潟	中長距離	工/システム
3年	川瀬 智美	新発田/新潟	マネージャ	教育/児童情報
3年	鈴木 昇平	伊勢/三重	跳躍	教育/保健体育
2年	岡崎 浩樹	小松/石川	中長距離	工/メディア
2年	吉田 佑	龍ヶ崎一/茨城	中長距離	教育/理科

学年	氏名	出身校/出身地	ブロック	学部/学科
2年	高橋 友	酒田東/山形	マネージャ	人文/人文
2年	山下 弘文	沼田/広島	短距離	教育/保健体育
2年	西尾謙次郎	浜松南/静岡	短距離	工/機械
2年	石崎あゆみ	水戸三/茨城	跳躍	教育/健康
2年	石川 あい	下妻一/茨城	マネージャ	教育/保健体育
2年	中野 雅利	東海/茨城	短距離	教育/技術
2年	渡辺 雄馬	水城/茨城	中長距離	教育/保健体育
2年	嶋田絵里子	牛久/茨城	中長距離	教育/健康
2年	野田 春香	藤代/茨城	中長距離	教育/スポーツ
2年	寛 千佳	常葉菊川/静岡	中長距離	教育/健康
1年	井川 勝彦	大垣東/岐阜	中長距離	工/メディア
1年	河野 光由	太田一/茨城	中長距離	工/電気電子
1年	吉原さゆり	水戸桜ノ牧/茨城	短距離	教育/教育基礎
1年	荒木 千尋	並木/茨城	跳躍	教育/健康
1年	高野 和文	盛岡第三/岩手	中長距離	工/情報
1年	山本 悠輔	下田北/静岡	短距離	教育/保健体育
1年	手倉森洋人	八戸西/青森	中長距離	工/生体
1年	小河 純	水戸桜ノ牧/茨城	短距離	教育/理科
1年	森 あゆ美	茨城キリスト/茨城	跳躍	教育/保健体育
1年	石井 智也	長狭/千葉	中長距離	教育/養護学校
1年	早坂 菜央	宮城第二女/宮城	マネージャ	教育/健康
1年	鶴見 彩	藤代/茨城	中長距離	教育/健康
1年	二見有紀乃	真岡女子/栃木	投擲	教育/スポーツ
1年	尾崎 友美	八王子東/東京	跳躍	工/生体
1年	鈴木 晴香	浜松市立/静岡	マネージャ	教育/養護教諭
1年	鈴木 辰昇	山形南/山形	短距離	工/情報
1年	鈴木 遼	鹿沼/栃木	短距離	教育/保健体育
1年	蓮田 大樹	藤代/茨城	中長距離	教育/保健体育

編集後記

おかげさまで無事発刊にこぎつけることができました。これもひとえに皆様のご協力のお陰です。特に急な依頼にも関わらず快くペンを取ってくださった皆様、ありがとうございました。現役部員の活動内容を部誌という形で残すことによって、茨城大学陸上競技部の新たな歴史を刻んでいければと思います。部誌の名称「Perspiration」とは、「汗・発汗」という意味ですが、そこから派生して「努力」という意味でも用いられます。発明王トーマス・エジソンの有名な言葉「Genius is one percent inspiration and ninety-nine percent perspiration. (天才とは1パーセントのひらめきと99パーセントの努力である)」にも用いられているのはご存知のことと思います。ひとつの成功の裏にはたくさんの努力があることを忘れないようにしましょう、ただし闇雲に頑張るというのではなく、しっかりと目標を持って考えて競技に取り組んでいこう、という思いを込めてつけました。練習で多くの汗を流して、試合でのベストパフォーマンスにつなげましょう。(上地)

茨城大学陸上競技部に関するお問い合わせ

陸上競技部の活動に関するご意見・ご質問は、ホームページ内の掲示板、もしくは顧問までよろしくお願ひします。特に OB 名簿、歴代記録については更に充実させたいと思っておりますので、皆様からの情報をお寄せ下さい。

ホームページ URL

<http://www26.tok2.com/home/ibadaitandfclub/>

顧問 上地 勝

〒310-8512 水戸市文京2-1-1

茨城大学教育学部

Tel: 029-228-8477 (研究室)

Fax: 029-228-8478 (体育事務室)

e-mail: mueji@mx.ibaraki.ac.jp

茨苑 AC に関するお問い合わせ

〒310-0852 水戸市笠原町979-16

Tel:029-244-1036

益子 雄行

茨城大学陸上競技部部誌

「Perspiration」

創刊号

平成19年3月22日発行

編集責任者

笥 千佳 野田春香

井川勝彦 尾崎友美

高野和文

発行者 茨城大学陸上競技部